

露人労働比率ヲ半ハタニ提供スルコト不可能ニシテ國内ノ工業化並ニ失業者ノ根絶ト共ニ特ニ其ノ傾向甚シ而シテ規定ノ露人比率ヲ供給スルコト能ハサル一方ニ

於テ比率規定ヲ履行セント努ムルノ結果ハ供給セラル労働力ノ質ノ著シキ低下及露人労働力ノ不足ヲ補フヘキ日本人労働者ノ輸送ニ關スル許可ノ濫濫トナリ之ニ起因スル紛争事件ノ増加ヲ見ツツアリ

三、試掘鑛區ノ設定ニ關シ

前記八ヶ年ノ試掘期間中利契十三條ニ規定セル一千平方露里試掘地域ニ於ケル試掘區域（九六〇「デシャチ

ン」）ノ形狀及大サヲ或特別ノ數地區ニ於テハ之ヲ縮少又ハ變更シテ設定シ得ヘキ事

三、法規ノ緩和ニ關シテ

前記八ヶ年間ハ利契調印ノ日ヨリ今日ニ至ル迄ノ間ニ於テ變更サレタル「ソ」國法規並ニ一九四一年ニ至ル迄ノ間ニ變更又ハ發布スルコトアルヘキ法規中利契調印當時ニ於ケル會社ノ物質的負擔ニ比シ之ヲ増大セシメサルヘキモノノミヲ適用スル事

以上

2 北滿鉄道をめぐる諸問題

326

昭和八年一月二十五日

在ハルビン森島總領事より
内田外務大臣宛

李中東鐵道督弁提出による中東鐵道内部の業

務改革に関する意見書について

（接受日不明）

要旨

（別添）
東鐵内部ノ業務改革ニ關スル意見
（別添）

一、管理局蘇聯側局長、滿側副局長ノ權限ヲ平均セヨ

二、管理局各處ハ其性質ノ重要ト否ト拘ハラス平均ニ分配セヨ

三、財政權ハ理事會ニ歸收セヨ
四、正副處長ノ代理權ヲ速力ニ規定セヨ

五、滿露文ノ併用ヲ徹底セシメヨ

六、各鐵道俱樂部ニ満側幹事ヲ加ヘヨ
七、各貿易場設置ノ代辦所ヲ取消シ宣傳機關ニ利用スルヲ防
止スヘシ

八、兩次ニ亘リ蘇領内ニ引込ミタル車輛ヲ回収スルヲ要ス

九、「ウスリー」「ザバイカル」兩鐵道ノ使用中ノ貨車ヲ返

還セシメヨ

三、運賃ヲ整理シ營業ノ發展ヲ圖レ

三、國幣本位ヲ採用シ國家ノ金融制度ト符合セシメヨ

三、各處ノ中、下級從業員ノ任用ヲ平均セヨ

第一、管理局蘇聯側局長、滿側副局長ノ權限ヲ

平均セヨ

中露協定中ノ暫行管理中東鐵路第三條及奉露協定第一條第

八項ニハ均シク本路ハ管理局長一人蘇聯人ヲ任命、副局長

二人、中蘇國人各一名ヲ設ケ局長、副局長ノ職權ニ關シテ

ハ理事會之ヲ規定スルトアリ然ルニ事實上ハ今日ニ至ルモ

正副局長ノ職權ニ關シテハ何等規定ヲ見ス其主ナル原因ハ

中國側カ之ヲ提議シ蘇聯側ハ故意ニ之ヲ遷延セシメ或ハ局

長ノ權限ハ協定以前ノ權限ヨリ尙更ニ擴張スルノ要アリ等

ノ提議ヲナシ中國側ノ提議ヲ抑壓スル態度ニ出テ依然協定

以前ノ辦事章程（事務執行規定）ヲ援用スルノ狀態ニ在リ

該章程ノ規定ニ依レハ局長ハ獨裁制ニシテ副局長ハ其屬員

ナリ

現在滿洲國成立シ對外的ニ須ラク公平々等ヲ求ムルニ當リ

滿側副局長ノ權限ト蘇聯側局長ノ權限ヲ平衡セシムル要求

現在滿洲國成立シ對外的ニ須ラク公平々等ヲ求ムルニ當リ

滿側副局長ノ權限ト蘇聯側局長ノ權限ヲ平衡セシムル要求

總務 機務 商務 車務 電務 材料 會計 進款

恤金 圖書館 計十ヶ處

2 滿洲側カ處長ノ地位ヲ占ムル處

工務 繙譯 法律 衛生 房屋 印刷所 計六ヶ處

3 共同管理ノ形式ニ在ル處

地政 經濟調查局 計二ヶ處

以上ニ明カナル如ク工務處ノ一ヶ所ヲ除キ爾餘ノ各重要處

ハ全部蘇聯側ニテ處長ノ地位ヲ佔居シ居レリ曾テ屢々交渉

ヲ提出シ莫德惠前督辨モ亦中蘇聯會議ノ際之ヲ提出シタル

モ解決ヲ見シテ終レリ今次再ヒ協定ヲ根據トシテ之ヲ理

由ニ取り平均分配ノ提議ヲナシ力爭スル考ヘナルモ外交、

交通部ノ後援ヲ得レハ相當ノ效果ヲ收メ得ルモノト信ス

第三、財政權ハ理事會へ歸收セヨ

暫行管理中東鐵路協定

第八條「本鐵道所得ノ一切ノ純利益ハ理事會之ヲ保管ス」

奉路協定第一條第一三項モ亦同様ノ規定ヲナセリ

歷年營業不振ノ爲巨額ノ純利益舉ラス、但シ毎年二百乃至

三百萬ノ實數ハ過去ノ事實ニ徵スルモ明カナリ

此種ノ純利益ハ政府ニ交付以前當然理事會ノ會計ニ記入セ

ヲ提出シ兩國共同經營ノ眞意義ヲ貫徹スヘシ

況シテ兩協定記載ニヨレハ該提議ノ要項ハ理事會ノ權限内ニアリ本年ノ初頭先ツ蘇聯側ニ此問題ヲ提起シ正副局長連署捺印ノ目的ヲ達成ヲ期ス積リナリ、サレト怖ラク蘇聯側ハ故智ニ做ヒ遷延或ハ抑壓ノ態度ニ出スヘケレハ滿側ニ於テハ豫メ外交、交通兩當局ト共同陣營ヲ張リ氣ヲニシテ交渉ニアタレハ解決ノ望アリ

第二、管理局各處ハ其性質ノ重要ト否トニ不拘

平均分配セヨ

暫行管理中東鐵路協定

第四條「各處ハ處長カ中國人ナル場合ハ副處長ハ蘇聯國人、處長カ蘇聯國人ナル場合ハ副處長ハ中國人ナラサルヘカラス」

第五條「本鐵道ノ各級人員ハ中露國人民平均分配ノ原則ニ基キ任用ス」尙津路協定第一條、第九條、第十條ノ兩項ノ意義モ亦之ト相同シ上掲ノ協定ノ規定ニ從ヘハ管理局ノ各處ハ當然既ニ平均分配力實現シ居ル筈ナルニ付今日ニ至ルモ實現ヲ見ス、次ノ如キ不平均ナル分配狀態ニアリ

1 蘇聯側カ處長ノ地位ヲ占ムル處

ラレルヘク管理局ノ會計ニ記入シテ局長ノ支配ニ任スヘキ金款ニ非ス故ニ本年度ニ於テ此問題ヲ提起シ解決ヲ謀ラントス

管理局ノ各處ハ元正處長一人、副處長二人（滿蘇聯各一人）

アリシカ前年李紹庚力爭ノ結果各處ハ正副處長共各一人ニ改正シ蘇聯側副處長ハ全部撤去シタリ、但シ事務繁雜ナル處ハ高級委員ヲ設クルヲ得同時ニ處長カ缺席シタル場合ハ

副處長ハ副處長カ代理シ高級委員ハ之ヲ代理スルヲ得スト規定シタリ、然ルニ事實上ハ處長缺席ノ場合管理局長ハ高級委員ニ代理ヲ命令ス現在各處ハ平的分配未實現ノ狀態ニテ副處長ハ多ク滿國人ナリ、斯ル不公平ナル代理命令ハ蘇聯側局長カ各處ノ事務ヲ獨裁把持スルニ基因シ滿側副處長ヲ無視スルカ爲ナリ故ニ高級委員カ處務代理ヲ成スヲ得サルコトヲ規定ニヨリ提議解決スル積ナリ

第五、滿露文ノ併用ヲ徹底セシメヨ

東鐵ノ一切ノ公用文書ハ悉ク露文ヲ主トスルカ故ニ事務上非常ナル不便ヲ感シ居レリ滿側專門家必シモ露文ニ精通セス之力爲重要ナル地位ハ皆蘇聯國人ノ占ムル所トナレリ

一九三一年管理局革露祕書處ヲ繙譯處ニ改組以來始メテ満露文併用サルルニ至レリ、サレト當時ハ經費ノ都合上僅力ニ重要文書ノミニ限ラレ一般ノ文書ハ満文缺除シ居レリ之力爲全部ノ文書ニ漢文ヲ添加スルコトモ徹底サレ共同經營ノ精神ニ符合セシムヘク而シテ蘇聯側モ亦便益ヲ得ルナリ

第六、各鐵道俱樂部ニ満側幹事ヲ加ヘヨ

東鐵各大驛ニハ皆職員ノ俱樂部アリ満側從業員ハ俱樂部ニ對シ興味ヲ有セス又會費ノ負擔アル爲往々其權利ヲ放棄シ俱樂部會員ニ加入セス之力爲俱樂部ノ一切ノ事務ハ悉ク蘇聯人ノ掌握スル處トナリ無形ノ中ニ娛樂ニ名ヲ藉リテ種々ノ小組織ノ委員會及團體ヲ設ケ宣傳工作ヲ行フコト多シ我官憲ハ俱樂部力從業員ノ娛樂機關ナルカ故ニ内部ニ干渉シテ赤化宣傳工作ヲ防止スルニ不便ヲ感シ居レリ故ニ今後俱樂部内ニ満側會員ヲ加入セシメ部内一切ノ事務ハ自由ニ之ヲ處分セシメス宣傳行爲等發覺シタル場合ハ直ニ之ヲ反對シ同時ニ我官憲ニ報告シ禁止ス

第七、各貿易場設置ノ代辦所ヲ取消シ宣傳機關ニ利用スルヲ防止スヘシ

各外部貿易場ニ設置スル代辦所ハ商業上ノ價值ナキモノ十

分ノ六、七ヲ占ム例ヘハ上海、營口「ウラジヲストツク」奉天等ハ年々巨額ノ經費ヲ消耗シ當然撤去スヘキモノナリ然ルニ蘇聯側カ同意セサル所以ノ者ハ該代辦所ニ有能ノ黨員數名ヲ送リ消息ヲ通シ暗ニ宣傳ヲ爲スノ用意ナルカ爲ナリ、茲ニ本年ハ營業不振ニ依リ豫算激減ヲ理由トシテ代辦取消ノ提議ヲナス筈ナリ例ヘ一時ニ其目的ヲ達シ得ラレストモ漸次之ヲ撤去スレハ鐵道ノ見地ヨリスルモ支出ノ減少トナリ赤化防止ニモ大ナル效果アリ

第八、兩次ニ亘ル車輛ヲ露境引込ヲ回收シ其責

任ヲ問ヘ

東鐵ノ機關車、貨客車等ノ車輛ハ九、一八事變ノ際ト去歲末蘇炳文叛變ノ際ノ二回ニ亘リ蘇聯境内ハ引込マレタル數莫大ナリ、從來屢次交渉スルモ未タ返還セス僅カニ蘇炳文叛變事件ノ部分ノミ一部變遷ヲ見タルモ尙延引ノ事トセル狀況ナリ、茲ニ嚴重ナル交渉ヲ開始シ全數ヲ返還セシメ同時ニ何人ノ命ニヨルカラ究問シ其責任問題ヲ提出セントス、責任力局長ニ關聯スル處アレハ之ヲ機會ニ局長懲戒問題ヲ提出シ獨裁專行ノ風ヲ矯正ス、若シ尙機關車、車輛ノ返還ヲ肯ンセサレハ満側ハ東鐵財政處置ノ全般的對策ヲナセ

第九、「ウスリー」後「ザバイカル」兩鐵道借

用貨車ヲ返還セシメヨ

東鐵ト「ウスリー」及後「ザバイカル」兩鐵道トハ連絡ノ關係上從來貨車交換ノ事アリ且之ニ關シ使用車輛契約アリ交換方法及使用時日、期限外使用料支^{佛等}_(第)ニ付各々規定アリ、我滿洲國成立以來「ウ」後「ザ」兩鐵道力本鐵道ノ貨車使用數ハ實ニ四千輛ノ多キニ達シ東鐵全有貨車九千輛餘ノ半數ヲ占ムルニ至レリ之カ爲東鐵ハ運輸上尠カラス支障ヲ蒙リ居レリ現在東西兩部線トモ開通シ再ヒ交通杜絕ニ藉ロシテ不返還スルヲ得ス近キ將來ニ於テ期限付返還ヲ要求シ要求ニ應セサレハ國境ノ貨物積換ヘノ交換ヲ停止ス

第十、運輸料金ヲ整理シ營業ノ發展ヲ謀レヨ

東鐵運輸規定ハ甚タ不平均ニシテ運輸貨物ハ從來收入減少スルモ東行貨物ニ力ヲ注ク傾向アリ故ニ運輸規則委員會ヲシテ改メテ東鐵運輸料金審査ヲ行ハシメ満蘇聯ヲ問ハス本路ノ利益ヲ前提トシテ審考セシム之ニヨリ無形ノ中ニ南行運輸ヲ増加セシメ得ヘシ

第十一、國幣本位ヲ採用シ國家ノ金融制度ト符

合セシメヨ

一九二九年露支事件ノ際蘇聯國從業員ノ怠工ハ若シ白系露

セヨ

東鐵業務執行上、上級職員カ之ヲ指揮命令スルハ固ヨリ重要ナレトモ中、下級從業員ハ直接ニ業務ノ執行ニ當ル者ナレハ又重要ナリ

人ノ援助ナケレハ全線運輸不可能ニ陷ラシムル虞アリキ之

一ツノ明證ナリ

近來中、下級從業員中滿側從業員數漸次增加ノ傾向アルモ

未タ半數ニ達セス故ニ一面今後中、下級從業員ニ缺額ヲ生

シタル場合ハ滿國人ヲ以テ補充スル事ヲ要求シ同時ニ東鐵

各練習所ヲ極力維持シ中、下級ノ専門人材ヲ養成シ抜擢補

充ヲ圖ル

結語

上述ノ各項ハ本年度ニ於テ解決セントスル者ノ重ナル者ナ
リ、其他事務上或ハ臨時發生ノ各問題ニ付キテモ亦共同經營ノ精神並ニ満側ノ權利ヲ損失セサルコトヲ以テ本旨トシ圓滿解決ニ努力スル考ヘナリ

但シ之等問題ハ頗る繁雜多岐ニシテ小肖李紹庚一個ノ力ヲ以テ解決スルモノニ非ス賴ム所ノ者ハ人材ト人ノ和ナリ故ニ何ヨリモ前提トシテ考究サルヘキ者ハ人事問題ナラント信スルモノナリ

(以上、一九三三、一、一六、譯完)

327 昭和8年4月11日 在英國松平大使より

内田外務大臣宛(電報)

中東鐵道車両のソ連領内引入れ問題につき照会

ロンドン 4月11日後発

本省 4月12日前着

第一五〇號

日露兩國關係ニ關シテハ最近諸新聞ハ何等ノ記事ヲ掲クルモノナク從テ當地共產黨ノ當館ニ對スル蠢動モ鎮靜シ居リタル處十一日「ベラルド」ハ東支鐵道理事長カ最近機關車一〇二輛貨車四〇〇〇輛客車九〇〇輛ヲ露領内ニ引揚ケタル事ニ關聯シ滿露關係緊張シ來レルコト及日本側機關紙タル「ハルビン、タイムズ」ハ右理事長ノ捕縛ヲ主張シ同人ノ遣り方ハ延イテハ日露戰爭ヲ誘致スルノ懼レアリト述へ居ルコトヲ誇張的ニ報道シ居ルニ付テハ各方面ヨリノ問合ニ對スル説明振リモアリ本件眞相至急御回電ヲ請フ
哈爾賓ニ轉電セリ

328

昭和8年4月12日 内田外務大臣より

在英國松平大使宛(電報)

中東鐵道車両のソ連領内引入れ問題は滿洲国限 りの局地的問題として解決させる方針について

本省 4月12日後10時40分発

第五六號極秘

貴電第一五〇號ニ関シ

一、東支及「ウスリー」鐵道間ニハ一九二五年車輛ノ相互融通ニ関スル協定成立シ之ニ基キ「ソ」側ハ相當數ノ東支貨車ヲ引込ミ居リシカ其ノ後滿洲事變發生以來特ニ多數ノ貨車ヲ「ウスリー」及「ザバイカル」方面ニ引込ミテ返還セス(現在「ウ」鐵ヘ三千輛、「ザバイカル」鐵道ヘ八百輛)更ニ今年ニ入りテヨリハ「エクスボルト、フレーブ」カ独立會社ニ賣込メルモノナリトテ採算上引合ハサル大豆類ヲ積載セル多數ノ貨車ヲ東支管理局長「ルーディ」ノ独断ヲ以テ「ザバイカル」ニ直通セシメ居タルニ依リ滿洲国政府ハ三月中旬李東支理事長ヲシテ「クズネツォフ」副理事長ニ對シ右直通輸送ノ停止ヲ管理局長ニ命令方同意アリタク然ラサレハ右停止ノ為適當ナル手段ヲ採ルヘキ旨申入レシ

メ更ニ交通部森田鉄道司長等ヨリモ右直通停止及車輛ノ返還方交渉シタル處「ク」ハ直通輸送ハ一九三〇年以来行ハ

レ居ルコト、現在輸送中ノ大豆ハ五月末迄ニ輸送ヲ完了スルニ付其ノ後ハ自然停止セラルヘク又此種輸送ハ滿洲国ニ有利ナリ等ノ理由ヲ挙ケ直通停止ヲ肯セス只借入車輛ハ早晩返還スヘク且之ニ付テハ借料ヲ支払フヘキ旨認メタルモ滿洲国側ハ今回ノ直通輸送ハ「ルーディ」ノ独断ニ依ルコト及右カ東支ニトリ經濟上有利ナラサルコト、今後東支車輛ニ不足ヲ來ス虞アルコト等ノ理由ニテ讓ラス其ノ間「ソ」側ハ更ニ車輛ヲ滿洲里ヨリ搬出スル等誠意ナキ態度ヲ示セル為滿洲国側ハ四月七日東支「ザ」鐵間ノ聯絡「ポイント」ヲ切斷シテ車輛ノ直通ヲ阻止セリ(歐亞聯絡客車ハ從来モ滿洲里ニテ乗換タルヲ以テ之ニ依リ何等ノ影響ナク貨車ニ付テハ今後同地ニ於テ積換ヲ要スルコト、ナリタルモ右ハ便不便ノ問題ニ止マリ欧亞聯絡杜絶ニ至ルカ如キコトナカルヘシ)

二、尚「ソ」側ハ滿洲事變發生當時東支機関車ヲ「ソ」領ニ搬出シ更ニ蘇炳文「ソ」領遁入ノ際搬出セルモノ十八輛ヲ加へ現在「ソ」側ニ引込中ノモノ八十五輛ニ達ス、滿洲國ハ李理事長及外交部北滿特派員ヲシテ客年來交渉セシメタルモ「ソ」側ハ元來東支使用ノ機関車中百二十四輛(全部

優秀車)ハ「ケレンスキイ」當時露西亞力自國鐵道ノ為米國ヨリ購入シハル賓ニテ組立テ爾來其儘東支ニテ使用シ居ルモノニシテ「ソ」側ノ所有ニ属ストナシテ返還ヲ肯セス之ニ対シ滿洲國側ハ「ソ」ハ一九二四年協定ノ際右ニ付何等言及セサリシヲ以テ當時東支ニ属セン財產ハ總テ其ノ所有ナリト主張シ今日迄何等解決ヲ見ルニ至ラズ

三、貨車及機関車ノ「ソ」領引込ノ眞意ハ必スシモ明瞭ナラサルモ(イ)「ソ」聯邦ニ優秀機関車ノ製造能力ナキコト(ロ)「ソ」聯邦全般ニ亘リ貨車不足シ殊ニ極東飢餉ノ為農產物等ヲ歐露ヨリ輸送ノ為貨車ヲ必要トルコト(ハ)日「ソ」間有事ノ際ヲ考慮セルコト(ニ)東支ハ早晚回収サルヘシトノ觀測ノ下ニ多數ノ機関車及貨車ヲ自己ノ手中ニ收メ置カントスルコト等ノ理由ニ出ツルモノト推察セラル

四、本件ニ関スル我方態度ハ之ヲ滿洲國限リノ局地的問題トシテ解決セシムル方針ニシテ滿洲國ヲシテ公正且合法的ニ折衝セシメ急遽事ヲ過マリ内外ノ疑惑ヲ抱カシメサル様指導スルヲ適當トシ右ノ旨軍中央部ヨリ關東軍司令部ヘ本大臣ヨリ武藤大使ヘ電報セリ

本電露土ヲ除ク在欧各大使及米ヘ轉電アリタシ

329 昭和8年4月15日 在ハルビン森島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

中東鐵道内部における滿洲國側の實勢力をソ連側と同等にするよう指導すべき旨意見具申

ハルビン

本省 4月15日後着

第二三一號(極秘?)

⁽¹⁾本官發滿宛電報

第一九九號

熱河ノ討伐一段落ト共ニ滿洲國ノ全土ハ大体名實共ニ我政權下ニ歸屬シ今後益々國基強固ヲ加フルニ至ルヘキ事明力ナル處獨リ北滿ニ於ケル東支鐵道ノミハ依然蘇聯ノ實勢力ノ下ニ滿洲國政權外ニ立チ宛然獨立ノ存在ヲ持續シツツアリ蘇聯ノ東支車輛牽引ノ如キモ要スルニ東支ニ於ケル蘇聯ノ實勢力ノ反映ニ外ナラス又東支鐵道ハ啻ニ極東ニ於ケル蘇聯ノ政治的經濟的勢力ノ足場タルニ止マラス滿洲赤化運動ノ根源ト云フヘク蘇聯力東支鐵道竝學校、病院、俱樂部等鐵道附屬ノ諸機關ヲ以テ共產主義ノ擴大ニ利用シツツアル事推察ニ難カラス最モ滿洲事變後本邦勢力ノ北滿進出、

滿洲國ノ成立、滿洲側新鐵道ノ敷設等ノ事象ニ依リ漸次東支ノ經濟的勢力ノ後退ヲ來シ早晚蘇聯トシテモ東支問題ヲ根本的ニ清算スルノ必要ニ直面スヘキ事ハ當然ノ趨勢ト云フヘキモ我方トシテハ漫然右ノ如キ事態ノ到來ヲ待ツ事ナク機會アル毎ニ滿洲國ヲ表面ニ立チテジリジリ東支内ニ於ケル蘇聯勢力ニ壓迫ヲ加ヘ日蘇又ハ滿蘇國交ノ根本ニ龜裂ヲ生セサル範圍ニ於テ蘇聯側勢力ノ自然的失墜ヲ計ル事得策ニシテ少クトモ滿洲國側ヲシテ東支ノ内部ニ於テ名實共ニ半々ノ實勢力ヲ把握セシムル事ヲ目標トシテ諸般ノ施措ヲ講スルノ要アリト信ス

蘇滿折半ノ原則ハ奉露並露支協定ノ等シク規定スル處ニシテ

滿洲國側ニ於テ之力目的達成ノ爲用ユル手段ニシテ宜敷ク機ヲ得ハ別段滿蘇ノ根本關係ニ支障ヲ招致スルコト無力ルヘク他方諸外國ニ對シテモ何等憚ルノ要無カルヘシ殊ニ蘇聯側ニ於テ滿洲國ノ背後ニ日本ノ存スルヲ認識シ居ル以上滿洲國又ハ我方ニ於テ蘇聯領ニ侵入スルカ如キコト無キ

限り武力的行動ニ出ツルコト無カルヘキハ滿洲事變發生以後ニ於ケル蘇聯ノ態度ニ鑑ミ疑ヲ容レサルヘク我方トシテハ今次車輛問題ノ發生ヲ機トシ單ニ同問題ノ解決ニ止マラ

ス更ニ一步ヲ進メ漸次東支内ニ於ケル滿洲國ノ實勢力ヲ確立シ得ル様事態ヲ利導スルコト得策ナリト信ス車輛問題ニ付今後幾多ノ迂餘曲折ハ免レサルヘク其ノ間滿洲國側トシテハ管理局長ニ對シ車輛牽引責任者ノ調査並處罰、東支滿洲里驛長ヲ滿洲人ニ變更スルコト、「ボグラ」ニ於ケル直通列車ノ蘇滿乗務員ノ折半採用等種々ノ方策ニ出ツルコトアルヘシト思考セラルル處出先機關タル本官トシテハ前記根本方針ノ下ニ機宜ニ處置スヘキ處存ニ付右御含置アリ度ク何等心得フヘキコトアラハ御指示相仰度シ

大臣、露ヘ轉電セリ

330 昭和8年4月17日 在ソ連邦大田大使より
内田外務大臣宛(電報)

中東鐵道車両のソ連領内に入れ問題は隣接鉄道間ににおける通常の交換にすぎないとのイズ
ヴェスチヤの報道振りについて

モスクワ 4月17日後着

十六日當地諸新聞ハ最近國通ヲ始メ在滿日本及白系諸新聞カ東支車輛問題ニ關聯シ東支蘇側代表ニ對シ猛烈ナル反蘇運動ヲ開始シタル處滿洲國交通部勤務ノ日本人官吏等ハ公然之ヲ支持シ居レリトノ趣旨ノ十四日哈府發「ロスター」電

ヲ掲ケタルカ其ノ中「イズヴェスチャ」ハ短評ヲ試ミ大要往電第二〇〇號ノ趣旨ヲ述ヘタル後今回滿洲側ト稱スルモノカ突然挑發的喧噪ヲ再燃セルハ東支ノ事態ヲ尖銳化シ及

出來得ル限り蘇側ノ管理事務ヲ困難ナラシメントスルモノト看做ササルヲ得ス又貨車問題ハ隣接鐵道間ニ於ケル通常

ノ交換ニ過キス多年支障モ無ク誤解モ無ク行ハレ來レルモノナリ而シテ東支ニ殘留セル蘇側ノ貨車カ蘇聯ニ在ル東支ノ貨車ヨリ多キ事並之ヲ以テ蘇側力滿洲官憲ニ對シ蘇貨車ノ奪取ナリトノ説明ヲ敢テ爲シ居ラサルコトハ留意ニ値ス

滿鐵ト關係ヲ有シ反蘇運動ノ主唱者タル滿洲國交通部勤務ノ日本人官吏等カ蘇聯邦ノ財產ニシテ蘇支共管タル東支ノ利益ヲ何人ヨリモ考慮セサルコトハ立證スルノ要無カル可シ是等事實及反蘇挑發運動ニ顧ミ東支奪取準備ニ關スル「チタ」報道ハ特種ノ意義ヲ有ス可シ

蘇聯ノ輿論ハ右冒險分子今後ノ企圖ニ對シ充分留意ス可ク
ヲ得ル爲本月關東軍ニ提出シタル趣ナルカ該案ハ東支ヨリ蘇側ヲ驅逐シ及東支ヲ滿洲國側ニ引渡ス形式ノ下ニ日本人カ之ヲ奪取スル目的ヲ以テ東支ニ於ケル蘇聯政府ノ權利侵害ノ實行ヲ豫見シ居リ北京及奉露協定ニ違反スル同案ノ最近ノ目的ハ鐵道就中東部線ノ平常ナル事業ヲ亂シ後貝加爾及烏蘇里兩鐵道トノ貨物輸送ヲ中絶シ並ニ東支ノ財政狀態ヲ紊亂シ以テ東支ニ於ケル蘇側ノ事業遂行ヲ不可能ナラシムル事態ヲ生セシメムトスルニアリ

尙「ルーデイ」管理局長カ恰モ專横ノ振舞ヲ爲シ殊ニ東支所屬ノ機關車及貨車ヲ蘇聯内ニ抑留セシメタルカノ如ク全然根據ナキコトヲ以テ同人ヲ非議シ居レリ之ヲ要スルニ右行動ハ東支ヲ奪取シ以テ日本統制下ノ鐵道組織ニ編入セントスルモノナリ

「イズヴェスチャ」ハ右報道ニ對シ左ノ如キ短評ヲ加ヘタリ

哈府電報ハ東支ニ於ケル事態ニ對シ深甚憂慮スヘキモノアルヲ思ハシム若シ在北滿日本官吏カ自己ノ熱心ヨリ此種冒險的及挑發的行動ニ出テタルモノトセハ吾人力屢々經驗シ

タル通り日本政府カ之ヲ周知セスシテ行ハルモノナルコ

又日本政府及輿論力之等冒險家ノ欲意ニ付手段ヲ講スヘキコトヲ期待ス云々ト報セリ

331 昭和 8 年 4 月 27 日 在ソ連邦大田大使より

内田外務大臣宛(電報)

在滿州國日本人等は中東鐵道奪取を計画中と

のソ連紙の報道について

モスクワ 4 月 27 日後発 本 省 4 月 28 日前着

廿七日ノ新聞ハ「東支ニ於ケル新シキ挑發ヲ準備シ居レリ」ナル見出シノ下ニ大要左ノ如キ廿五日哈府發「ロスター」電ヲ掲ケタリ

確實ナル情報ニ依レハ在哈爾賓日本總領事森島氏ハ東支理事會ニ於ケル滿洲國側ノ指導ニ當ル事トナリ東支及後貝加爾鐵道連絡ノ強制停止ハ同氏ノ直接指令ニ基キテ行ハレ又李紹庚署名ノ「スラウツキ」宛書翰及施履本署名ノ「クズネツオフ」副理事長宛書翰ハ孰レモ同氏ノ指圖ニ依レル由ナリ他方在滿日本人等ハ東支ニ對スル計畫案ヲ立テ確認ヲ得

トヲ期待セントス日本政府ハ東支ニ於ケル蘇側權益力侵害セラレサルヘキコトニ對シ責任ヲ採レリ在哈爾賓日本代表者ノ爲サント欲スルカ如キ「隠レンボウ」ノ遊戲力何人ヲ瞞著シ得ヘキヤハ明カナリ蘇聯輿論ハ日本カ適當ナル時期ニ在哈爾賓日本(脱?)等不謹慎且危險ナル遊戲ヲ取締リ且奉露及北京協定ニ違反セシメサルコトヲ期待ス
滿、哈爾賓ヘ轉電セリ在歐各大使(土ヲ除ク)ニ郵報セリ

332 昭和 8 年 4 月 28 日 内田外務大臣より
在獨國永井大使宛(電報)

中東鐵道車両のソ連領内引入れ問題に関する
ソ連側との交渉経緯について

付 記 作成日、作成局課不明

「東支鐵道車輛問題ニ關聯スル『ソヴィエト』
聯邦政府ノ四月十六日附申出ニ對スル帝國政府回答」

本省 4 月 28 日(註) 9 時 10 分発

五月六號ニ依リ成行御承知ノコト、存スル處其ノ後ノ経過概要左ノ通

本件ニ付テハ貴方へモ轉電済ノ筈ナル本大臣發英宛電報第
四月十二日李東支理事長ハ「クズネツォフ」副理事長ニ對
シ一ヶ月以内ニ貨車機関車等ノ返還方要求セルカ之ヨリ先
月十日「ク」ヨリ滿洲里ニ於ケル東支「ザバイカル」鐵
道間聯絡点封鎖ハ一八九六年ノ東支建設契約第十条違反ニ
付速ニ原状ヲ回復セラレタキ旨抗議シ來レルニ付李ハ二十
日右封鎖ハ車輛不法搬出阻止ノ為已ムヲ得サル手段ニシテ
滿洲里駅ノ営業ヲ阻害セサル範囲ニ於テ之ヲ行ヘルノミ又
建設契約第十条ハ直通々過貨物ノ免稅方ニ閥スル規定ニシ
テ通過貨物ハ一律ニ直通輸送スヘシトノ規定ニアラス今次
ノ直通輸送問題ハ多年合弁ノ相手方ヲ無視セル「ソ」側專
横ノ結果ニ外ナラズ東支ニ閥スル諸規定ハ奉露協定締結後
直ニ改訂ノコト、ナリ居タルニ拘ラス「ソ」側ハ今日ニ至
ルモ合弁關係ヲ曖昧ナラシメ其ノ慣習ト実力トニ依リ独断
專行ヲ企図セリ即チ理事會ノ機能ハ不完全ニシテ重要事項
ヲ決スル能ハス管理局長ハ獨斷專行、滿洲人副局長ハ嘗テ
訓令ニ副署シタルコト無ク管理局ノ要職ハ全部「ソ」聯人
追テ電報スヘシ

土ヲ除ク在欧各大使及米ヘ轉電アリタン
在英大使宛往電第五六号ト共ニ露ヘ轉電アリタン
右ニ付テハ各般ノ事情調査中ニテ近ク回答ノ豫定ナルニ付
シ直通輸送閉鎖ハ不法ナルニ付追テ正式抗議スルコトアル
ヤモ知レスト述ヘタル後直通輸送ヲ至急再開シ滿洲里停頓
貨物ヲ「ソ」領ヘ輸送アリタキ旨要求セル趣ナリ
尚「ソ」政府ハ十六日在「ソ」大田大使ヲ經テ東支鐵道問
題ニ關シ數多ノ事項ヲ挙ケ帝國政府ニ抗議ヲ申入レタルガ
右ニ付テハ各般ノ事情調査中ニテ近ク回答ノ豫定ナルニ付
追テ電報スヘシ

編注 午前、午後不明

(付記)

東支鐵道車輛問題ニ關聯スル「ソヴィエト」聯

邦政府ノ四月十六日附申出ニ對スル帝國政府回答

ニ依リ占メラレ居ル有様ナリ故ニ滿洲国政府ハ本件ヲ動機
トシテ將來論爭ノ目的タルヘキ一切ノ事項ニ付明確ナル決
定ヲ與フルコトニ「ソ」側ガ協力センコトヲ切望スル旨申
送ル處「ク」ハ今日東支ハ合弁営業ナリト云フハ所有及
管理ノ兩問題ヲ混全セルモノニシテ東支ハ「ソ」滿共同管
理ヲ爲シオルモ所有權ハ「ソ」側ニ在ルコト、機關車ハ
「ソ」ノ所有ナルコト、貨車ハ「ソ」側ヨリモ東支ニ融通
シアリ使用料ハ何時ニテモ清算スヘキコト、速力ニ滿洲里
ニ於ケル聯絡線路封鎖ヲ解キ東支カ歐亞聯絡ニ參加シ居ル
各鐵道ニ對シ負ヘル残務履行ヲ妨害セザル様措置アリタキ
コトヲ回答シ来レリ之ニ對シ李ハ二十二日東支カ「ソ」ニ
シタルコトナク從テ歐亞聯絡ヲ妨害シ居ラス、貨車使用料
清算ニハ同意、機關車ハ東支ニ屬スルコト、鐵道業務ノ常
態復帰ノ為ニハ各種車輛ノ返還ヲ要スルコト等ヲ回答セリ
他方滿洲国外交部北滿特派員ヨリモ在哈爾賓「ソ」聯邦總
領事ニ對シ四月十二日機關車ノ即時返還及右使用料ノ支拂
方ヲ要求セルニ對シ總領事ハ十八日機關車ハ「ソ」ノ所有
ニ属シ多年無償ニテ之ヲ使用セル東支ニ對シ使用料請求問

ニ於ケル匪賊討伐上諸般ノ困難アリタルニ拘ラス同鐵道ノ
利益ヲ毀損セサルコトニ萬全ノ注意ヲ拂ヒタルハ顯著ナル
事實ニシテ右ハ「ソ」聯邦政府ニ於テモ充分諒承セラルヘ
キ所ナリ。然ルニ「ソ」聯邦政府ハ最近數ヶ月ニ於ケル滿
洲國官憲及同國ノ日本人顧問ノ行動並ニ直接出先日本官憲
ノ行動カ東支鐵道ニ於テ重大ナル事態ヲ生シタリト爲シ、
同鐵道ノ正常ナル運行カ阻害セラレタルコトニ付テノミナ
ラス此等行動カ右鐵道ニ關スル事態ノ尖銳化ヲ目的トスル
コトニ付テモ憂慮シ居レリトテ「ソ」聯邦ノ利益侵害ナリ
トスル若干事例ヲ指摘シテ帝國政府ニ對シ右利益擁護ノ爲
有效ナル手段ヲ採ランコトヲ要求セリ。

右指摘セラレタル事項中ニハ事純然タル滿洲國政府ノ管轄
ニ屬スルモノアリ。右ハ帝國政府ノ關知セサル所ニシテ假
令之ニ日本人タル滿洲國政府官吏又ハ顧問ノ關與シタルコ
トアリトルモ右日本人官吏又ハ顧問ハ自己ノ自由意志ヲ
以テ滿洲國ノ勤務ニ入り専ラ同國政府ノ指揮監督ノ下ニ行
動スルモノナルニ付此等官吏又ハ顧問ノ行爲ニ付帝國政府
ニ於テ責任ヲ負フヘキ筋合ノモノニ非サルヲ以テ此種事項
ニ關シテハ茲ニ回答ノ限ニ在ラス。

指摘事項中帝國政府ノ關係アルモノニ關シテハ出先官憲ヲシテ慎重調査セシメタル結果左ノ通ナリ。

(イ)日本軍人ノ哈爾賓埠頭事務所占有云々ノ問題ニ付テハ、

哈爾賓ニ於テハ一九三二年ノ大洪水以來建築物極度ニ不

足シ居ルヲ以テ日本軍碇泊場司令部ハ本年松花江開航期

ニ際シ第八區埠頭内ノ建物ヲ滿洲國交通部東北江運處ヨ

リ臨時借入レタルモノナルカ同埠頭ニ付テハ江運處ト東

支間ニ之力使用問題ニ付交渉懸案中ナルニ鑑ミ日本軍ノ

右借入ニ付テハ同交渉解決ノ際ハ直ニ明渡スヘキ條件ヲ

附シアリテ右ノ趣ハ江運處ヨリ東支側ニ通告済ノ趣ナリ。

事情右ノ如クナルヲ以テ本件ハ東支及江運處間ノ前記交

渉トハ無關係ニシテ且現ニ右交渉案件中ノモノヲ日本官

憲ニ於テ奪取シタリト云フカ如キ事實ナシ。又日本軍ノ

借入レタル建物ハ現ニ東支力日常營業ヲ行ヒツツアル埠

頭背後引込線區域ト離隔シ毫モ其ノ作業ヲ妨害スルモノ

ニモ非サルヲ以テ日本軍ニ於テ何等東支ノ利益ヲ毀損シ

タルモノニモ非ス。

尙埠頭問題ニ關シテハ嘗テ在本邦「ソ」聯邦大使ヨリ日本側ノ好意的斡旋ヲ得度キ旨申出アリタルニ對シ本件ハ

害ヲ蒙リオリ特ニ「ソ」聯邦人ノミヲ目標トセルモノト認ムル能ハス。尙右東部線ハ本年一月日本軍ノ兵匪掃蕩ニ依リ開通シタル以來今日迄運行ヲ停止シタルコトナシ。

(二)在滿帝國官憲ハ東支鐵道ニ關スル最近ノ滿「ソ」間紛議ニ關與シタルコトナシ。從テ「ソ」聯邦政府カ右帝國官憲ニ於テ「ソ」聯邦内ニ在ル機關車及貨車問題ヲ人爲的ニ捏造シツツアリト云フカ如キハ事實アリ得ヘカラサル所ニシテ右ハ「ソ」聯邦側ノ邪推ニ非サレハ故意ニ事實ヲ捏造セルモノト云ハサルヲ得ス。反テ最近「ソヴィエ

ト」通信機關タル「ロスター」カ在滿日本軍憲及出先官憲ノ行動ニ關シ事實無根ノ誹謗的報道ヲ屢々傳フルハ我方ノ頗ル迷惑且遺憾トスル所ナルヲ以テ「ソ」聯邦政府ニ於テ速ニ此種報道ノ取消及取締方ニ付適當ナル手段ヲ講セラレントコトヲ要望セサルヲ得ス。

尙「ソ」聯邦政府ハ「ソ」側ノ東支ニ對スル車輛返還ノ遷延ハ日滿軍ト支那軍トノ軍事行動ノ爲東支兩端カ閉塞シタル結果ナリト爲セル處、右兩端ハ反滿匪賊ノ蟠踞ニ

因リ一時閉塞シタルコトアルハ事實ナルモ間モナク匪賊討伐ニ關スル日本軍ノ努力ノ結果東支西部線ハ既ニ客年

「ソ」滿兩國間ノ問題ニシテ帝國政府ノ關知スル所ニアラサル旨ヲ明ニスルト共ニ好意的ニ出先官憲ニ就キ事情問合方取計ヒタルコトアルモ帝國外務省ハ未タ嘗テ「ソ」

側ニ本問題ノ急速解決ノ援助ヲ約シタルコトナシ。

(ロ)日本軍輸送運賃問題ノ交渉ニ關シテハ、一般運賃率ニ付

テハ五割引ヲ適用スルコトニ略協議纏リ目下右運賃率ヲ

適用セラルヘキ貨車ノ等級及其積載量並装甲列車ノ運賃率等ニ付商議繼續セラレツツアリ。右諸事項ニ關スル關係軍ノ具体的意見ハ東支側ニ詳細申入濟ニシテ東支ヨリ

ノ回答ヲ俟チツツアル實情ナルヲ以テ帝國軍部カ本件交渉ヲ故意ニ遷延セシメ其ノ結果東支ノ財政ヲ惡化セシメ居レリト云フハ當ラス。本件ハ互讓ノ精神ヲ以テスレハ遠カラス解決ヲ見ルヘキ問題ニシテ尙又關東軍ハ東支ノ要請ニ應シ右交渉未成立ニモ拘ラス前後五回ニ亘リ既ニ二百二十萬圓ヲ前渡シタリ。

(ハ)東支東部線方面ニ於テハ山間ニ分散遁入セル匪賊カ今春一時出沒シ時ニ列車ヲ襲撃シ又ハ鐵道從業員若ハ附近住民ヲ拉致セル事件アリタルコトハ事實ナルモ、右ハ一時的ノ現象ニシテ其間日滿兩國人モ「ソ」聯邦人ト共ニ危

十二月、東部線ハ本年一月以來開通シ居レリ。從テ車輛返還ノ遲延ヲ日本軍等ノ軍事行動ニ因ル東支兩端ノ閉塞ニ藉口スルハ事實ヲ誣フルノ甚タシキモノナリ。

(ホ)客年四五月ノ交滿洲國側ニ檢舉セラレタル「ソ」聯邦人相當多數ニ上レル處右檢舉ハ同年四月十二日ノ東支東部線成高子ニ於ケル日本軍隊輸送列車顛覆事件（右事件ニ依リ數十名ノ日本軍將士死傷セリ）ヲ始メ之ト殆ント前後シテ發生セル雙城堡日本軍入城妨害事件（未遂）、「バザノフ」ノ爆破物搬入事件、第二松花江鐵橋爆破計劃事件（未遂）、舊哈爾賓ニ於ケル鐵道破壞計劃事件（未遂）等直接間接日本軍ニ對スル危害ヲ目的トセル事件ニ關聯スルモノニシテ日本官憲モ必要ノ程度ニ於テ滿洲國官憲ニ助力シ事件ノ調査ニ一時關與シタルカ本件力日本軍ニ對スル危害ヲ目的トシタル關係上右ハ當然ノコトナリ。而シテ其ノ間日本憲兵力被檢舉「ソ」聯邦人ヲ拷問シタリト云フカ如キ事實ナシ。

以上述ヘタル所ニ依リテ「ソ」聯邦政府ハ帝國軍隊及官憲ノ行動ニシテ「ソヴィエト」政府ノ憂慮スルカ如ク東支鐵道ニ關スル事態ノ尖銳化ヲ目的トシ又ハ同鐵道ニ於テ重大

ナル事態ヲ生セシメタルカ如キコト絕對ニ無之コトヲ充分諒解セラルヘシト信ス。

尙最後ニ、現ニ東支鐵道ノ經營ニ關聯シテ惹起セラレタル紛争ノ解決ハ同鐵道共同管理ノ責任者タル「ソ」滿兩國當局間ノ折衝ニ待ツヘキ所ナルモ、「ソ」滿兩國間ニ於ケル平和的秩序ノ維持ハ重要ナル極東平和ノ基調タリ。而シテ帝國政府ハ日滿議定書ノ規定ニ基ク責務ニ鑑ミ滿洲國ノ治安維持ニ付不斷ノ關心ヲ有スルカ故ニ該紛争ノ推移ニ關シテハ深甚ノ注意ヲ怠ラサルト共ニ紛争カ一日モ速力ニ公正妥當ナル解決ニ到達セムコトヲ冀望シテ已マサルモノナリ。

東支運賃引下ヶ運動ニ關スル件
本件ニ關スル五月十八日附在滿大使宛拙信公領第三〇九號寫送付ス

公領第三〇九號
昭和八年五月十八日

在哈爾賓

總領事 森島 守人

在滿洲國

特命全權大使 武藤 信義殿

東支運賃引下ヶ運動ニ關スル件

333 昭和八年五月十八日 在ハルビン森島總領事より
内田外務大臣宛
中東鐵道運賃引下げに関する要望書提出について
普通第七一〇號
(5月23日接受)
昭和八年五月十八日

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

在哈爾賓
總領事 森島 守人〔印〕

東支ノ運賃引下ヶニ付テハ從來トモ各方面ニ於テ鐵道當局ニ對シ種々運動行ハレ居タルカ客月廿八日當地滿洲國側商會及日本商工會議所等主唱ノ下ニ北滿ノ製粉、糧棧、油房ノ各業者並特產物商等會同シ聯合運動ヲ起シタル處次テ本月十日當地並沿線ノ各法團計九十團體代表百六十名哈市商會ニ參集別添譯文ノ如キ「東支鐵道運賃引下問題ニ關スル要望書」ナルモノヲ東支理事會、同管理局、同督辦公署、東省特別區長官公署、滿洲國交通部ニ送達スルコトヲ決議

シ且日本商工會議所會頭加藤明及滿洲國側商會長三名ヲ實行委員ニ選出シタルカ該「要望書」ハ東支運賃ノ不當ヲ數字的ニ示シ居レルニ付右譯文茲ニ添送ス
右報告ス

本信寫送付先

外務大臣

在京 奉天 齊々哈爾各總領事領事

東支鐵道運賃引下問題ニ關スル要望書(譯文)

拜 啓

ルニ非レハ此ノ經濟的不況ヲ匡救シ能ハスト存候、猶東鐵ハ滿鐵線ト相隣接シ居レルカ、兩鐵道ノ運賃ヲ比較スルニ東鐵ノ運賃引下ハ實ニ當然ノ事ト存候、茲ニ東鐵運賃ト滿鐵運賃トヲ比較スレハ左記ノ通リニ候
(一噸、一〇〇杆、一金留ヲ國幣一元六四トシ換算ス)

品 名	東 鐵	滿 鐵
綿 布	一一、八六	六、〇〇
麻 袋	二三、七三	六、〇〇
金 銀	一一、〇〇	四、七〇
雜 貨	一四、〇三	四、七〇
香 料	一一、〇〇	四、七〇
鐵 製 品	一四、〇三	六、〇〇
木 製 品	一一、〇〇	三、四〇
農 具	二三、七三	六、〇〇
靴	六、〇〇	四、七〇
茶	六、〇〇	四、七〇
臘 燭	二三、七三	一五、四三
陶 磁 器	一四、〇三	四、七〇
臘 燭 原 料	一四、〇三	四、七〇
臘 燭	一四、〇三	四、七〇

外交關係
七 日ソ東支鐵道運賃引下問題ニ關スル件
然ルニ東鐵ハ開業以來甚敷高率運賃ヲ持續シ四十年間殆ト其使命ヲ果シ居ラサルヲ以テ從來屢各商工團體ニヨリテ運賃低減ヲ提唱セラレタル事有之候得共嘗テ之レニ一顧モ與ヘタル事無之、爲ニ社會經濟益衰微シ人民ノ購買力愈喪失スルニ至リ居候 今東鐵運賃ヲ低減シ以テ之レカ調和ヲ計

豆 油 一、八六 四、七〇

上記比較表ヲ參照セハ東鐵運賃ハ滿鐵運賃ニ比シ二三倍或ハ四倍以上高率ニ相成リ居ル事歴然タルモノ有之候尙連絡輸入貨物運賃ノ高率ナル事ハ驚クノ外無之同一貨物ニシテ滿鐵運賃ノ十倍以上ニ達スルモノ不勘候其比較左記ノ通りニ候

(一噸、一〇〇糀、一金留ヲ國幣二元〇八九トシテ換算ス)

品名	東 鐵	滿 鐵
紙 紗	二六、五五	二、〇五
生 絲	二七、八〇	二、〇五
綿 布	三三、六七	三、八四
麻 袋	三七、〇六	二、七四
染 料	一〇、三〇	二、〇五
生 果	一九、五三	二、一一
四〇、一七	三、八四	

上記ノ表ニヨリ之ヲ見レハ東鐵ハ交通ノ利便ヲ圖ルヘキ機關ナルニ不拘、該鐵道沿線居住一般人民ハ日常生活必需品ニ余剩アル時或ハ缺乏セル時有無相通スル能ハス、輸入業者亦商取引ヲ阻害サレ時ニ取引不可能ニ陥ルコト有之唯ニ

地方經濟ノ發展ヲ阻止スルノミナラス人民生活ノ負擔ヲ増加セシメツツアルモノト可申候

東鐵運賃ノ高率ナルハ全世界各國鐵道中ノ第一ナリトノ說ハ虛言ニ無之、旅客運賃ニ至リテモ東鐵線哈爾賓ヨリ新京ニ至ル距離二百四十糀滿鐵線新京ヨリ大連ニ至ル距離七百〇五糀、其里程ノ差約三倍ニ有之候處三等運賃前者ハ國幣七元六四（一金留ヲ國幣一元六四ニ換算）後者ハ僅ニ國幣十一元ニ過キス之レ亦多數旅客ヲシテ鐵路利用ノ能力ヲ減殺セシメ居ルモノニ有之候

由來鐵道運賃ハ其主權國ノ通貨ヲ以テ定ムルカ世界各國ノ通例ニ有之候處東鐵ハ滿洲國領土上ニ敷設サレ居リ且蘇聯國ト滿洲國ノ共同經營ナルニ不拘、其建値ハ前例ニ反シ金留ヲ以テ本位トシ滿洲國通貨ヲ一種ノ從貨ト見做シ居候、是レ已ニ主客轉倒ノ嫌有之ノミナラス所謂金留ハ通常貨トシテノ流通價值アルモノニ無之、騰落ハ一二東鐵ノ自由意思ニ憑リ左右セラレ、何人モ不得已之レニ從ヒ居ル狀態ニ有之候爲メ商民ノ營業ハ自カラ確實ナル方針ヲ立テ難ク、勢ヒ投機ニ類シ市場ヲシテ時ニ危險不安ニ陥ラシメ申候本月十日東鐵沿線各地ノ商會齊シク哈爾賓ニ集合シ前述ノ

事實ニ就キ一一論議致候結果、北滿前途ノ榮枯ハ一二東鐵ノ方針ニヨリ左右サルモノニ付今後東鐵ハ運賃ノ一大低減ヲ爲シ他鐵道ト其貨率ヲ等シクシ又空虛ナル金留本位ヲ

國幣本位ニ改ムルニ非サレハ啻ニ北滿ノ農工商業ヲ再ヒ挫

折セシムルノミナラス遂ニ之ヲ枯萎セシムルニ至ルヘク吾

等各商會ハ北滿一千五百萬民衆ノ生活苦ヲ默視スルニ忍ヒス相共ニ立チ茲ニ請願ヲ爲ササルヲ得サルニ至リ候次第二御座候（幸ヒニ吾等ノ希望ヲ容レ御變革被下候ハハ他日地方發展ノ機會ニハ東鐵モ亦相當ノ收獲ヲ得ル事ト可相成之レ固ヨリ共存共榮ノ策ニ不他ト存候

右貴會ニ請願申上候條貴鐵道管理局ニ御移牒ノ上請願ノ目的達成致候様御取計被下度此段奉懇願候也

東鐵理事會宛

各商會署名

同文發送先—東鐵管理局、同督辦公署、行政長官公署

滿洲國政府交通部

第五三六號

新 京 発

本 省 5月22日後着

日滿關係當局會合において中東鐵道およびウス

リー鐵道間の直通連絡禁止実行決定について

二十二日日滿關係當局會合シ森田交通部鐵道司長ヨリ哈爾賓ニ於ケル東支鐵道車輛返還及組織改造ニ關スル交渉經過ヲ聽取シタル上今後ノ方策ニ付意見ヲ交換シタルカ往電第四六號東支「ウスリー」ノ直通連絡禁止ニ付テハ蘇側ノ車輛返還ニ關スル無誠意及本件問題ノ行懸ニ鑑ミ愈々本月末日ヲ以テ豫定通り之ヲ實行スル事ニ決定セリ

右ハ此ノ上ノ車輛引込ヲ阻止スルコトヲ目的トスル技術上ノ問題トシテ取扱ヒ以テ聯絡協定破棄ノ責ヲ避ケルト共ニ蘇側ニ對シ東支賣却提議力滿洲國側ノ機先ヲ鈍ラシ問題ヲ有耶無耶ノ中ニ葬リ去ラントスルノ肚ナルコトアリ得可キヲ考慮シ滿洲國トシテ從來ノ主張ヲ堅持スルモノナルコトノ態度ヲ明カニスルト同時ニ東支買收問題ノ具體化スル場

セントスルニ在リ尙當方トシテハ現下ノ情勢上本件實行ニ

依リ憂慮ス可キ事態ヲ發生スルカ如キハ想像シ居ラサル所

ナリ爲念

軍ト打合濟

滿洲里、哈爾賓、露ヘ轉電セリ

335

昭和8年5月28日

内田外務大臣より
在米国出淵大使宛(電報)

中東鐵道の滿洲國への讓渡に対し我が國は好

意的に仲介斡旋をとる方針について

本省 5月28日前0時45分発

合第一〇六一號

往電合九二七号ニ関シ

東支鐵道ハ滿洲國成立後モ「ソ」側ニトリ或程度ノ經濟的役割ヲ演スル外同國赤化宣傳ノ爲有効ナル足場ヲ供シタル實状ニ鑑ミ「ソ」側ヲシテ同鐵道ヨリ全然手ヲ引カシムルコト有利ト認メラレ旁今回帝國政府ハ「リトビノフ」ノ提議ニ應シ我方ノ承諾シ得ヘキ適當ノ條件ニ付協定成立スルニ於テハ右鐵道及一切ノ附帶事業ノ買収ヲ決行スルコトニ議ヲ決シ尚買収當事國ノ問題ニ付テハ帝國政府ニ於テ買収

スルコト直接北滿方面ニ於ケル帝國地歩ヲ鞏固ナラシムルノミナラス交渉上ニモ有利ト認メラルカ如キモ帝國ハ満洲國ノ独立ヲ承認シ現ニ之カ擁護ノ立場ヲ採リツヽアリ且蘇側ノ東支賣却提議ハ同國成立后ノ情勢ニ伴ヒ具体化セル次第モ鑑ミ同國ニ於テ買収ノ衝ニ當ラシメ帝國政府ハ右交渉進捗ノ爲仲介支援ノ勞ヲトルコトニ決セリ依テ右ニ付満洲國トモ協議ヲ遂ケタル上二十七日大田大使ニ対シ帝國政府ニ於テハ今次蘇側提議カ日本トノ親善ヲ維持シ且強固ナラシメントスルニアルコトヲ篤ト諒承スルモノナルカ東支ノ經濟的價値ハ近時北滿交通施設ノ發達ニ伴ヒ益々減少ノ傾向ニアルモ東支カ動モスレハ日滿蘇間軋轢ノ原因タルニ鑑ミコレカ根本的解決ヲ爲スコト極東平和ノ大局上望マシク右買収ニ關シテハ東支ト最モ利害關係深キ滿洲國ニ於テ之カ當事國トナルノ意向アリ我方ニ於テモ右ニ異議無キニヨリ本件ハ同國代表者ト交渉アリタク尤モ帝國政府ハ右交渉進捗ノタメ充分ノ好意ヲ以テ仲介斡旋ノ勞ヲトルヘシ尚交渉ノ場所ハ東京ヲ最モ適當ト思考スル旨ヲ「リトヴィノフ」ニ回答スルト共ニ本件ヲ「リ」提議ノ如ク一舉ニ解決スルタメニハ徒ニ技術的討議ニ没頭スルコト無ク飽ク迄

大局上ノ見地ヨリ政治的解決ヲ計ルコト緊要ト認ムル旨ヲ

申出テ右ニ對スル蘇側ノ意向ヲ確ムヘキ旨電訓セリ

本電發電先 英、米、支、北平、南京及廣東並ニ在蘇國各公館

英ヨリ在欧各大使ニ轉電アリタシ英ヨリ在欧各公使ヘ轉報
アリタシ

米ヨリ紐育市俄古ヘ轉報アリタシ

336 昭和8年5月31日

在滿州國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

中東鐵道の漢文名称を北滿鐵道に改称について

付記 五月二十九日発在ハルビン小松原(道太郎)特

務機関長より真崎(甚三郎)參謀次長宛電報哈

第一八〇号

右改称に対しソ連側の同意について

新京 5月31日後発

本省 5月31日後着

七 日ソ外交關係

滿洲國政府ニ於テハ六月一日ヨリ中東鐵路ヲ北滿鐵路ト改

関東、北平、天津、上海、奉天スミ

第五八二號

337 昭和8年6月2日 在ハルビン森島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

ポグラニーチナヤにおける直通連絡遮断問題
につきソ連側からの抗議について

ハルビン 6月2日後発
本省 6月2日後着

第三四三號
本官發滿宛電報

第三一一號

交通部ニ於テハ過日東支蘇聯側ニ對シ副理事長ノ權限擴張、
(從業員ノ折半、東支運賃ヲ國幣建トスルコト等東支内部ノ改造ニ關スル要求ヲ提示シタル處六月一日「クヅネツオフ」
副理事長ハ李督辨ヲ來訪シ「ポグラ」ニ於ケル直通聯絡ノ遮斷ハ事態ヲ紛糾セシムルニ付至急解除アリ度東支關係ノ諸問題ハ其ノ上ニテ協議スルコトシ度旨申入レタル趣ナルカ蘇聯「スラウツキー」總領事モ同日施特派員ヲ來訪シ前記直通遮斷力重大ナル結果ヲ招致スヘキ趣ヲ以テ嚴重抗議スル旨申入レタル由ナリ然ルニ他方「クヅネツオフ」ハ前記會見ノ際從來此ノ種問題ニ付テハ一々文書ヲ以テ應酬

シ居リタルモ右ノ如キハ問題解決ノ所以ニアラサルヲ以テ今後ハ口頭ニ依リテ話合ヲシ度旨述ヘ居リタルノミナラス「スラウツキー」モ施ニ對シ蘇滿親善關係ニ鑑ミ蘇聯人中滿洲國側ニ於テ國內ニ滯在スルコトヲ好マシカラスト認ムルモノアル時ハ隨時通報アリ度同總領事ニ於テ凡テ滿洲國立退ノ措置ヲ講スヘキ旨述ヘ居リタル趣ナルカ「ポクラ」ニ於ケル直通ノ遮斷ハ蘇聯側トシテモ豫テ覺悟シ居リタル處ニモアリ前記兩人ノ態度ヨリ察スルモ左迄大局ニ影響ヲ及ホスコト無キモノト認メラル
大臣、露、奉天、齊々哈爾、滿洲里へ轉電セリ

及ホスコト無キモノト認メラル

大臣、露、奉天、齊々哈爾、滿洲里へ轉電セリ

338 昭和8年6月5日 林閔東京警務局長より
河田拓務次官、堀切(善次郎)内閣書記官長、重光外務次官宛

滿州國交通部より北滿鐵道理事會に指令した

關機高支第一一七一六號
昭和八年六月五日
(6月9日接受)

北滿鐵道改革案について

拓務次官殿
奉第六八六號
參謀本部 7月12日後9時0分着
憲兵報

關東廳警務局長

事部の地方的營業方針に關し協議について

奉天 7月12日後4時15分発
參謀本部 7月12日後9時0分着

内閣書記官長殿
外務次官殿
東鐵改革ニ關スル件

満洲國交通部ニ於テハ東鐵理事會ニ對シ

東鐵ヲ北滿鐵道ト改稱ノ件

一、東鐵ノ運賃其他給料等ヲ總テ國幣ヲ以テ取扱フ件

一、從業員折半實施ノ件(即チ東鐵ノ從業員ハ上下總テ折半スヘキ規定アルモ從來上級從業員ニ於テハ蘇聯人多ク下級ハ支那人多キ趣キナリシ爲之ヲ規定通り實行スル件)
其他ノ指令ヲ森田司長ヲ通シテ發シタル處五月三十日理事會ヲ招集審議セントセルニ蘇聯側クツネツオフ理事力病氣ト稱シ出席セサル爲開催斯ル能ハサリンカ右ハクツネツオ

フハ該問題ヲ重視シ理事會ノミニテハ決定スルヲ得サル故本國政府ニ請訓中ナル爲出席セス其ノ回訓アリ次第討議スヘキ下心ナリト

以上

奉天特務機關より

植田參謀次長宛(電報)

在奉天ソ連領事館において今後の北滿鐵道商

日本軍の北満占拠により北満鐵道はソ連側にとつて無価値となつたとの米国紙の報道について

普通公第三四七號 昭和八年八月七日

在米

(9月5日接受)

特命全權大使 出淵 勝次〔印〕

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

北満鐵道ニ關スル紐育「タイムス」特派員

Steeleノ特信報告ノ件

八月六日紐育「タイムス」ハ同社特派員 Steeleノ北満鐵道ニ關スル特信ヲ掲載シタルカ右ハ日本カ北満ヲ占據シタル結果北満鐵道ハ蘇側ニ取り經濟的ニモ軍事的ニモ全然其ノ價值ヲ喪失シタル次第ヲ説明シ同鐵道沿線ニハ從來時々馬賊ノ出沒シタルコトナキニ非サルモ一九三一年九月日本軍力満洲ニ於ケル支那政權ヲ驅逐シテ以來同沿線ニ於ケル匪賊ノ跳梁頓ミニ顯著トナリ昨今同鐵道ハ腐朽ト破壊トニ委セラレ居ル狀態ナルカ殊ニ甚タシキハ「ハルピン」「ボ

ヲ完全ニ満洲國國法及國策ニ準據セシムルコト
(ハ)奉露露支協定ノ條項ノ如キモ苟クモ満洲國主權ニ抵觸スル點、純然タル商業機關トシテノ北鐵ノ「ステータス」ト相容レサル點竝満洲國ノ現狀ニ適セサル點若ハ條理上不合理ナラサル點ハ絕對ニ之ヲ承認セサルコト
(其ノ趣旨ハ東京交渉第(脱)回會議ノ満洲國聲明書ニモ記載シ居レリ)
而シテ右ノ爲ノ具體的工作トシテ左記諸項考慮セラレ居レリ

(イ)⁽²⁾交通部ニ於テ北鐵ノ職制改革、運賃率及留建ヲ國幣建

トルコト職員均分其ノ他懸案ノ諸問題ニ付一層强硬ナル態度ヲ執ル事殊ニ監理局長權限問題ニ付テハ督辨ヲシテ副局長ノ署名無キ局長ノ行爲ハ無効ナル旨ノ聲明ヲ發スル氣勢ヲ示サシメ場合ニ依リテハ右聲明ヲ實施スルコト

(ロ)警務及檢察當局ニ於テ北鐵ヲ基幹トスル共產黨、共產青年同盟、赤色職業組合等非法團體ノ組織及工作狀況ノ調査ヲ爲シ其ノ結果ニ依リ之カ全般的彈壓ノ方策ヲ定メ各地ニ於テ共產黨ノ全般的手入又ハ北鐵實力接

グラニチナヤ」間東部線ニシテ同線ハ目下殆ント運轉休止ノ状態ニ陥リ居レリト述ヘ居レリ右御参考迄同記事添付報告ス

341 昭和8年9月4日 在滿州國菱刈大使より
内田外務大臣宛(電報)

告ス

北満鐵道買収交渉を容易にするために今後満

州國側が行う諸工作について

新 京 9月4日後発
本 省 9月5日前着

第一〇一〇號(至急、極秘)

(一)⁽¹⁾満洲國ニ於テハ今春來北鐵車輛返還問題ニ關聯シ満洲里「ポグラ」聯絡遮斷等事實北鐵壓迫策ヲ講シ居レル處更ニ東京ニ於ケル買収交渉ヲ有利ニ導ク爲過般來左記方針ノ下ニ各種工作ヲ實施スルコトトナリ

(イ)是等諸工作ノ實施ヲ買収交渉ノ爲ノ策謀タルコトヲ露骨ニ示スコトヲ避ケ満洲國政府トシテ當然爲スヘカリシ處ヲ爲スニ過キストノ建前ヲ取ルコト

(ロ)満洲國主權下ニアル一商業機關タル北鐵及其ノ從業員

收ノ準備行爲ト目セラルル如キ措置ヲ爲スコト例へハ
鐵道從業員、軍警等ノ動員、配置替ヲ爲スコト、蘇聯人又ハ北鐵從業員ノ戸口調査ヲ行フコト或ハ北鐵俱樂部其ノ他北鐵機關ノ臨檢ヲ行フコト等
最近累積シツツアル國境ニ於ケル蘇聯ノ不法行爲ニ付
嚴重ナル抗議ヲ爲スコト(本項ニ付テハ客月二十五日既ニ北滿特派員ニ於テ實施濟ナルハ哈爾賓來電第四七五號ノ通ナリ)

(二)右方針ニ基ク交通部工作ニ付テハ管理局長權限問題ヲ

心トシテ過般來理事會ヲ開催シ又ハ稽核局ノ活動ヲ促シ以テ満洲國ノ要求貫徹ニ力メ居ル次第ハ隨時哈爾賓總領事ヨリノ電報ニ依リ御承知ノ通ナル處客月二十五日在東京大橋次長ヨリ謝總長宛東京交渉牽制ノ爲更ニ積極的ニ強制手段ヲ執ラレ度旨要望シ來リタルヲ以テ本月二日國務院ニ日系官吏首腦部、軍側係官(當館ヨリハ谷參事官、花輪^(帶)滯同出席)會合シ遠藤新廳長ノ來任ニモ顧ミ從來ノ北鐵對策ヲ再検討シ將來ノ具体策ニ付協議スルコトトナリ右協議ノ概況別電^(備註)通

別電ト共ニ哈爾賓、露ヘ轉電セリ

昭和8年9月4日 在満州国菱刈大使より
内田外務大臣宛(電報)

今後の対北満鉄道工作に関する日滿關係者間

協議について

新京 9月4日後発
本省 9月5日前着

(¹) 第一〇一一號(至急極秘)

先ツ外交部神吉司長ヨリ東京交渉ノ經過概要並ニ往電第一〇一〇號方針ニ付説明ヲナシタル後森田交通部路政司長ヨリ理事會ハ客月九日以來開催セラルコトトナリタルカ同會ニ對シ満洲側ヨリハ(一)一九二四年露支協定中東鐵路暫行管理協定第三條及奉露協定第一條第八款ニ依ル蘇側管理局長及滿側副局長ノ權限問題ニ關スル件(二)各種重要處長ノ均等分配問題ニ關スル件(三)機關車客貨車及蘇側鐵道トノ車輛精算問題ニ關スル件ノ三件ヲ提議シタルニ對シ蘇側ハ(一)蘇鐵道トノ無積換直通聯絡及北鐵經由ノ直通聯絡問題ニ關スル件(二)各種經費(特區内各種公共

機關等ニ對スル公納金等)ノ削減問題ニ關スル件(三)貨率低減問題ニ關スル件其ノ他雜件十一ノ多數ヲ提案シテ會議ヲ混亂ニ陷レシメムトノ策ニ移リタルモ右十一ノ雜件ハ會議初日タル九日午前中ニ解決シ同日午後ヨリ右滿側提案(一)ノ管理局長權限問題ノ討論ニ移リタル處蘇側ハ本問題ノ重要ニシテ複雜ナル爲詳細ナル調査ヲ理由トシ直ニ委員會ニ移スコトヲ提議シ以テ本件遷延策ニシテ今更調査ノ要ナク先ツ八大方針ヲ決定シタル後委員會ニ廻付スヘキモノナリトノ主張ヲ維持シ互ニ讓ラス右討論ノ間莫斯科ニ於テ問題ノ内容ニ論及スルニ至リ滿側ハ主トシテ局長越權ノ事實ヲ指摘シ權限問題ヲ論シ蘇側ハ實際上ノ運用ヨリ管理局ノ二頭政治ノ不可ナルヲ説キ結局議纏マラス客月十四日ノ第四回會議ヨリ一時休會スルコトトナレリ其ノ後二十一日及二十五日ノ理事會ニ於テ副局長權限ヲ或程度擴張スルコトヲ認ムルニ至リ(哈爾賓往電第四六五號及第四七三號參照)又二十五日蘇側理事督辨ヲ訪問シ局長二人ヲ置クハ不可ナルモ管理局ヲ二分シテハ如何ト述ヘタルニ對シ督辨ハ

相當ノ根據有ルニ於テハ何時ニテモ逮捕スヘク又北鐵ノ債權者ヲ抱込ミ北鐵ノ各機關ニ對シ民事上ノ強制執行ヲ爲ス案ハ如何ト「サゼスト」シタリ

(三)又軍側係官ヨリ最近陸軍中央ヨリ本件ニ關スル滿洲國ノ合法的工作ハ可ナルモ威力ヲ以テ接收スルハ適當ナラス尙實力行使ニ當リテハ各方面ニ充分聯絡シ以テ實效ヲ學クル事緊切ナル旨ノ電報ニ接セル旨ヲ披露セリ

(四)右ノ如ク當地滿洲側日系要人ノ本件ニ關スル態度强硬ニシテ甚々性急のナルニモ鑑ミ谷參事官ヨリ東京交渉ハ大局上順調ニ運ヒ居リ露國トノ交渉ニ於テ交渉開始以來二ヶ月ニシテ「ルーブル」換算率迄滙キ付ケタルハ寧ロ滿洲國側ノ成功ト言フヘク一方日本國トシテハ一九三五年ヲ控ヘ近キ將來ニ於テ大陸ニ於テ大ナル紛爭ヲ欲セサル事情モアリ北鐵買收ハ必要トスルモ右ハ見込アルコトナレハ無理ヲセサルコト肝要ナリ又現狀ニ於ケル交通部工作ハ之カ爲北鐵ノ蘇滿共同經營ノ方向ニ向フコトトモナリテハ買收ノ根本方針ニ副ハサルニ至ルヘシト述ヘタルニ對シ遠藤總務廳長ハ右參事官ノ提言ニ贊意ヲ表シ本件處理ニ當ツテハ何處迄モ合理的方法ニ依ルヲ要シ右範圍

(二)次イテ長尾警務司長ヨリ北滿ニ於ケル共產黨取締ノ困難ナル實情ヲ述ヘタル後本件ニ關スル警務司側工作ニ付テハ一兩日中ニ哈爾賓ヨリ係官ノ歸京ヲ待チ更ニ報告スヘシト述フ

(五)司法部阿比留總務司長及栗山法務司長ヨリ交々特別區裁判機關ハ北鐵ヨリ年額百萬元ノ補助金ヲ受ケ居ル關係モ有リ北鐵關係ノ訴訟ハ九十八%迄北鐵側ノ勝訴トナル事實ニ鑑ミ本年度ヨリ右補助金ヲ中央ニ於テ統制スル事トナレル旨ヲ述ヘタル後本件ニ關シテハ司法部ニ於テハ目下積極的工作ヲ實施シ居ラサルモ北鐵重要人物ニ付テモ

内ニテ各部ニ於テ具體案ヲ作製^(成)ノ上更ニ本會議ノ審議ニ附スルコトシ度シト結ヒ次回會議ハ七日午後開催スルコトシ散會セリ就テハ此ノ際心得置クヘキコトアラハ至急御回示置キアリ度シ（了）

~~~~~

343 昭和8年9月10日

在満州国菱刈大使より  
内田外務大臣宛（電報）

### 北滿鉄道交渉実施要領に関する日満當業者間討議状況について

新京 9月10日前發  
本省 9月10日前着

第一〇五一號（極秘）

往電第一〇一一號ニ關シ

一、同電七日ノ會議ハ延期セラレ九日午前國務院ニ於テ開催ス同會議ニ於テ先ツ神吉ヨリ八日大橋次長發外交部宛電報ニ依レハ七日同次長ノ「カズロフスキイ」トノ會見ニ於テ蘇側ハ滿洲國ヲ對手ニセス只管遷延策ニ出ツルカ如キ態度ニテ會議ハ全ク「デツドロク」ニ陷リタリトノ印象ヲ得タリ右ハ蘇側ニ於テ

（欄外記入）

二、谷參事官ヨリ本件實施要領ヲ徹底的ニ行フニ於テハ結局實力接收トナリ右ハ蘇側ニ於テモ其ノ内政的立場ヨリスルモ何等抵抗セサルヲ得サルヘク勢ノ赴ク處面倒ナル結果リ

タリ

（三）實施案五ハ更ニ調査ノ結果之ヲ行フ事

哈爾賓、露ヘ轉電セリ

（欄外記入）

發表ニナシ

編注 別電第一〇五二号は見当たらないが、同電の内容については、第356文書の別電三を参照ありたい。

344 昭和8年9月14日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛（電報）

### 北滿鉄道交渉実施要領の修正点について

新京 9月14日後發

本省 9月14日後着

記

（一）實施案一ノ四中手入カ已ムヲ得ス樞要人物且廣範圍ニ及フ場合ニハ更ニ協議ノ上行フ事

（二）實施案二ハ直ニ之ヲ行フ事ハ實際上不可能ナルヲ以テ

時期ヲ見テ實行シ得ル範圍内ニ於テ之ヲ行フ事

ハ御意見ノ次第至急御電報ヲ請フ

（一）滿洲國累次ノ聲明並威嚇ハ單ニ口先ニ止マート多寡ヲ括リ始メタルコト

（二）日本朝野ニ於テ三十六年度ニ於ケル外交困難カ云爲セラレ又一方蘇聯ノ歐米方面トノ關係改善セラレ一般ノ形勢力蘇聯側ニ好轉セルカ如ク見ユルコト

（三）最近新聞ニ北鐵問題解決後ハ更ニ石油、漁業問題乃至滿洲國問題ニ付要求スヘシトノ風説現ハレ此際弱味ヲ見スルハ不得策ト考ヘタルコト

等ノ理由ヲ擧ケ得ヘキモ本來蘇聯カ北鐵讓渡ヲ提議スルニ至リタルハ我方ノ北鐵工作ノ威嚇ニ恐レタル結果ナリ從テ此際斷乎タル處置ヲ執リ滿洲國側ノ聲明力單ニ口先計リニアラサル所以ヲ示シ以テ本件解決ヲ促進スルコト絶對ニ必要ナリ右不可能ナルニ於テハ此際潔ク會議ヲ打切ルニ如カストノ趣旨ナリト述ヘタル後八日各部係官ニ於テ取纏メタル工作實施要領（別電ノ通）ノ審議ヲ求メタリ

（一）谷參事官ヨリ本件實施要領ヲ徹底的ニ行フニ於テハ結局實力接收トナリ右ハ蘇側ニ於テモ其ノ内政的立場ヨリスルモ何等抵抗セサルヲ得サルヘク勢ノ赴ク處面倒ナル結果リ

タリ

（二）谷參事官ヨリ本件實施要領ヲ徹底的ニ行フニ於テハ結局實力接收トナリ右ハ蘇側ニ於テモ其ノ内政的立場ヨリスルモ何等抵抗セサルヲ得サルヘク勢ノ赴ク處面倒ナル結果リ

タリ

（一）冒頭電報一ノ四ヲ削除ス

（二）冒頭電報四ヲ次ノ如ク改ム

哈爾賓稅務監督局又ハ稅關等ヲシテ要スレハ「ダリバン

ク」及北鐵消費組合ノ營業及納稅狀況ヲ調査セシム

三、冒頭電報五及六ヲ削除シ七ヲ五トシ左ノ通改ム

(イ)總務廳長統制ノ下ニ各主管機關ヲシテ適時實施ニ着手

セシム

(ロ)努メテ暗黙裡ニ遂行シ宣傳等ヲ爲サス

(ハ)日本側關係機關ト密ニ聯繫ヲ保ツ

(二)進捗狀況ハ隨時總務廳ニ報告シ同廳ヨリ關係方面ニ通

報ス

四、冒頭電報一、二、三四共括弧内各種官廳ノ項ヲ削除ス

露、哈爾賓へ轉電セリ

345 昭和8年9月20日

廣田外務大臣より  
在ソ連邦大田大使宛(電報)

廣田外相と在本邦ユレネフ大使との北滿鉄道

買収問題などに關する協議について

本省 9月20日発

十八日日本大臣就任初頭ノ在京各國大公使接見ノ際蘇大使

第二六〇号

\*\*

トノ會話要領左ノ通  
本大臣ヨリ日蘇兩國間ノ根本關係ハ既ニ確定シ何等疑惧ノ要ナキモ現在諸種ノ懸案一向ニ進歩セサル狀態ナルハ遺憾ニシテ此ノ際出來得ル限り速ナル解決ヲ希望スル主旨ヲ述ベタルニ對シ蘇大使モ至極同感ナルカ例ヘバ北鐵問題ニシテモ蘇側ハ既往三回ノ會議ニ於テ価格並換算率等ノ問題ニ於テ讓歩ヲナシタルニ拘ラズ滿側ニ於テハ初メヨリ常ニ同一ノ主張ヲ固執スルノミニテ斯ノ如キ態度ニ出テラルニ於テハ問題ヲ進捗セシムルコト全ク不可能ナリト應酬セルガ本大臣ヨリ同問題ニシテモ本大臣ノ新任ヲ機會ニ新ナル精神ヲ以テ協議ヲ開カレンコトヲ望ムト述ヘタルニ對シ大使ハ滿側ニ於テ從來通ノ態度ニ出ソル以上何回会合ヲ重ヌルモ結局同一事ヲ繰返ヘスノミニシテ此ノ際滿側ノ讓歩ナキ限り會議ノ效果ナシト思考スルモ「ソ」側ハ何時ニテモ会同スルニ異存ナシト述ヘタリ(依テ目下再開方ニ就キ斡旋中ナリ)

尚本大臣ハ蘇聯邦カ近來極東方面ニ軍備ヲ充実シツツアル新聞情報頻リニシテ日本國民ノ神經ヲ刺戟シ牽ヒテハ世界ノ問題トナリツツアル莫ニ言及シタル處大使ハ右ハ攻擊的

意ヲ喚起シタント答フ

其後ニ本大臣ハ曾テ蘇國在任中當時兩國間ノ懸案ノ一掃ニ努メタルガ今回就任シタル以上ハ現下ノ懸案タル諸問題ノ解決ニ向テ努力スル決心ナルニ付蘇政府當局並大使ニ於テモ之ニ協力ヲ望ムト述ベタル處大使ニ於テモ極力努力スベク尚直ニ本國政府ニ本大臣ノ意思ヲ電報スベク何レ両三日中ニ再ヒ本大臣ト會談シ更ニ詳シク具体的ノ問題ニ付意見ノ交換ヲ致シ度シトテ辭去セリ

満、哈爾賓、浦潮へ轉電セリ

浦潮ヨリ哈府及武市ニ、哈爾賓ヨリ滿洲里ニ暗送アリタシ

在ハルビン日滿各機關會議において北滿鉄道

車両ソ連領内引入れ問題責任者たるソ連人職員逮捕等の方針決定について

ハルビン 9月20日前發  
本省 9月20日後着

第五七一號(極秘)

本官發滿宛電報

第五一九號

大臣宛貴電第一〇五二號ニ關シ

十九日長尾警務司長、栗山法務司長及森田交通部司長等ヲ加ヘ在哈日滿各機關(滿人官吏ヲ含マス)特務機關ニ會合冒頭貴電ノ實施方法ヲ協議ノ結果左ノ如ク現地ノ意見ヲ決定セリ

一、(イ)冒頭貴電第一項ニ關シテハ本月中ニ機關車等出入責任

者タル六名及不法支出者一名計左記七名ヲ逮捕拘引ス

(一)機務處長「カリーナ」(二)鐵道工場長「ラウロフ」(三)行車調度科長「アプロフ」(四)財務處長「クーブリ

(以上在哈爾賓) (五)滿洲里機關庫長「シツエンコ」(六)滿洲里驛長「アブラメンコ」(七)「ボグラ」驛長「カツ

イリ」

(口) 稽核局ヲシテ右不法行爲者ヲ法院ニ起訴ス  
(ハ) 滿洲里及「ポグラ」在住者ハ國境警察隊ヲシテ逮捕ノ上  
上哈爾賓ニ押送セシメ哈爾賓ニ於テ一括取調ヲ爲ス筈

(二) 捜査ノ統一ヲ期スル爲關係機關ニ於テ検査委員會ヲ組織ス

(三) 捜査ノ際ノ宣傳公表ハ警務司之ヲ統一シ個人的發表乃至宣傳ヲ許サス

(四) 捜索並ニ逮捕ニ對シ妨害若ハ破壊的行動ヲ爲スモノアル時ハ機ヲ逸セス一網打盡的彈壓ヲ加フ

(ト) 稽核局ノ調査ヲ待チ追テ第二回ノ逮捕ヲ爲ス

(チ) 一々中央ノ指示ヲ受クル時ハ時機ヲ失シ又秘密漏洩スル惧アルヲ以テ細目ノ點ハ現地ニ一任スル様取計フ

二、冒頭貴電第三項ハ第一項實施後引續キ十月十日乃至十五日頃實施ス

三、冒頭貴電第二項ハ充分ナル準備ヲ整ヘ情勢ヲ見極メタル上大体十一日頃實施ス

右ノ決議滿側會議出席者ノ依頼モアリタルニ付總務廳長ヘ御傳ヘアリタシ

大臣及露ヘ轉電セリ

347 昭和8年9月22日 在ハルビン森島總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北滿鐵道において在天津、奉天等五力所の運輸營業所閉鎖方考慮中について

ハルビン 9月22日後発

本省 9月22日後着

第五七五號

本官發滿宛電報

北鐵ニ於テハ在天津、奉天、吉林、双城堡、一面坡等五個所ノ運輸營業所(商務代辦處)閉鎖方考慮中ナル處右閉鎖ノ表面的理由ハ北鐵經費節減ニ在ルモ從來運輸營業所ハ北鐵ノ利益ヲ計ルヨリモ寧口蘇側政策實行ノ機關トシテ利用セラレタル所多キニ鑑ミ滿側ヨリ右閉鎖ヲ主張シタルニ依ルモノナリ

大臣、露、奉天、吉林へ轉電セリ

348 昭和8年9月22日 在溝州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

新京 9月22日後発  
本省 9月23日前着

第一一五號(至急、極秘)

哈爾賓ニ於ケル北鐵交渉ノ促進ハ公正且合法的手段ヲ以テ漸進的ニ之ヲ行フ主義ノ下ニ左記ニ基キ實施スル一方現地ニ於テ內面的ニ指導セラレ度シ滿洲國ニ於テハ總務廳長統一指導ノ下ニ本工作ヲ實施ス

左記

右実施要領

新京 9月22日後発  
本省 9月22日後着

第一一一四號(極秘)

哈爾賓發本使宛電報第五一九號ニ關シ

二十一日參謀長ヨリ別電ノ通在哈爾賓特務機關長宛電報セル趣ナリ貴電合第一七六〇號中段御來示ノ次第モアリ不取敢

冒頭電報哈ヨリ溝州里へ轉電アリタシ  
露、哈爾賓、溝州里へ轉電セリ

(別電)

一、實施要項第三項ノ實施ハ他ノ工作ト併行シテ直ニ著手ス  
二、北鐵稽核局ノ調査セル資科<sup>(科)</sup>ニ基キ同局長ヨリ檢察廳ニ汽車科長、財務科長、滿綏兩驛長等計七名ヲ告訴シ檢察廳ハ正規ノ手續ヲ爲シ警務司長ノ命ニ依リ哈爾賓警察廳及滿綏警察機關(國境警察隊ノ使用ハ其ノ本來ノ任務上之ヲ避ケ哈爾賓等ヨリ有力ナル指導者ヲ派ス)ハ成ルヘク  
本月中ニ召喚訊問要スレハ身柄拘束ヲ爲ス  
三、拘引セルモノハ哈爾賓ニ留置シ警察廳刑事課及檢察廳ニ於テ取調ヲ爲ス  
四、稽核局ハ引續キ工作ヲ行ヒ要スレハ第二次檢舉ヲ爲ス  
五、豫期スヘキ妨害行爲ニ對シテ對應手段ノ準備ヲ爲シ暴力

行爲ニ對シテハ彈壓處置ヲ執ル但シ日本軍ハ之ニ使用セ

サル方針トス

六 實施要領第二項ニ基ク督辨ノ示達ニ關シテハ依然現工作

ヲ繼續シ尙強キ警告ヲ發シ效果無キ場合ニ於テ示達ヲ爲

ス示達時機ハ概々十一月頃ト豫定ス

第二項ハ原案ノ通

七 以上ノ細部工作ノ實施ハ現地機關ニ之ヲ委シ事宜ニ應シ

中（央）部ト聯絡ス

~~~~~

349

昭和8年9月22日

在ハルビン森島總領事より
広田外務大臣宛（電報）

在ハルビン日滿各機關の会合で決定した現地

実行案について関東軍から特務機關宛部分的

変更方訓令について

ハルビン 9月22日後発

本省 9月22日後着

本官發滿宛電報

第五二九號

~~~~~

第五八一號（極秘）

350 昭和8年9月23日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛（電報）

北滿鐵道をめぐる諸問題に関するソコリニコ  
フとの会談について

~~~~~

モスクワ 発
本省 9月23日前着

第四七三號

二十一日「ソコルニコフ」ハ求メニ應シ往訪セル本使ニ對
シ往電第四七二號ノ件ヲ述ヘタル後第二ノ問題ニ移リタク
右ハ極メテ重大ナル性質ヲ有ストテ滿洲國ノ對北鐵工作ニ
關スル件ヲ持チ出シ彼我ノ論議長時間ニ亘リタルカ其ノ要
旨左ノ如シ

「ソ」ハ疑フ餘地ナキ確實ナル情報ニ依レハ滿洲國政府ハ
日本人顧問ト共同シテ一方的手段ニヨリ東支ニ於ケル滿側
副管理局長ノ權限ヲ擴張シ其ノ同意ナキ限り管理局長ハ何
等命令ヲ發スルコトヲ得サラシメ事實上管理局長カ副局長
ニ從屬スル形トナサントシツアリ又近ク東支蘇側從業員
中ノ或者ヲ逮捕拘禁ヲ計劃中ナル由ナリ斯ノ如キ滿側ノ行
動ハ東支ヲ橫領セントスル策略ト見ルヘク蘇側ニ於テハ之
ヲ以テ座視スヘカラサル重大事件ト認ムルト共ニ豫テ滿洲
國政府並ニ日本政府ノ負ハレタル義務ニ違背スルモノト認
ム然モ滿側カスル手段ニ出ツルハ日本政府ヲ背景トスルモ
ノナルコト明カナルニ鑑ミ日本政府カ之ヲ容認セラルモ

拙電第五一九號ニ關シ

現地ニ於テ決定セル實行案ニ對シ關東軍ヨリ特務機關宛左
ノ如ク二三箇所變更方訓令シ來レリ

一ノハ國境警察隊ノ使用ハ原則上之ヲ避ケ有力ナル指導者

ヲ派遣シ成ル可ク本月中ニ召還訊問要スレハ拘束ス

（ハ）妨害行爲ニ對シテハ對應準備ヲ爲シ暴行者アル時ハ彈壓

ス而シテ右ニ付日本軍ヲ使用セサル方針

（ト）原案通り但シ直ニ檢舉實施

二、大臣宛貴電第一〇五二號三項ハ他ノ工作ト併行直ニ實施

三前項貴電二項督辨ノ示達ハ現工作ヲ繼續更ニ強キ警告

ヲ發シ效果ナキ場合ニ於テ行フ時期原案通り十一月頃

以上ハ公正且合法的又漸進的三行フ

外務大臣、蘇聯大使へ轉電セリ

~~~~~

350 昭和8年9月23日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛（電報）

北滿鐵道をめぐる諸問題に関するソコリニコ  
フとの会談について

~~~~~

本官發滿宛電報

第五二九號

~~~~~

局長ノ權限ヲ擴張シ局長カ

副局長ヨリ命令ヲ受クル事態ト爲サントスル試ミハ東支ヲ横領セントスルニ等シキモノナリ東京交渉ノ遷延ニ付テハ日本政府ニ於テモ相當ノ責任アリト認ムル處賣却交渉中ノ鐵道カ横領セラルルカ如キコトアラハ世人ハ蘇側ヲ嗤笑スヘシ滿側ノ斯ノ如キ態度ハ蘇側ヲ讓歩セシメ又ハ蘇側ニ脅威ヲ與フル上ニ何等役立タサルハ勿論反テ極メテ險惡ナル事態ヲ招致スヘシ次ニ拘禁問題ニ付貴使ハ不法行爲云云ト言ハレタルカ右ハ機關車及汽車ノ搬出問題ニ關スル紛爭事件ニ依ルモノニシテ日本政府モ之ニ關係セラレタル事項ニ屬ス元來管理局長ハ從業員ニ對シ命令ヲ發スル權限アリ然ルニ滿側カ右ヲ執行スル從業員ヲ不法行爲者ナリトシテ拘禁ストセハ即チ滿側ハ從業員ニ對シ管理局長ノ命ニ服セサルコトヲ要求スルモノト言ハサル可カラススクノ如ク滿側力現在ノ狀態ヲ破壞セントスルコトハ極メテ重大ナル事實ナリ余ハ斷然以上ノ如キ理由ニ依リ蘇政府ハ從業員一名ノ拘禁ト雖モ之ヲ忍フモノニ非ラス哈爾賓ニ於ケル新聞紙ニハ以上述フルカ如キ事情詳細ニ發表セラレ一再ナラス蘇側ニ對シ威嚇行ハレ居リ加之過般來右拘禁ニ對スル準備開始セラレタリ蘇側ハ右ノ如キ事態ニ鑑ミ「ユ」大使ヲシテ日

ソトシタルモノナリ故ニ之ヲ以テ今回ノ東京交渉ト關聯セシムルノ考ヘハ毫モ無シト思考ス又副局長ノ權限擴張ヲ求ムルモ右ハ決シテ局長ノ權限ヲ取上ケントスルモノニ非ス一國ノ主權者カ命令ヲ發スル場合關係大臣ノ署名ヲ要スルコトトナリ居レハトテ決シテ大臣カ主權者ノ權力ヲ奪フモノト言フヲ得サルト同様ナル可シ要ハ好ク聯絡ヲ保チ事務ヲ遂行シ度シト言フニ過キス次ニ從業員拘禁ノ件ニ付哈爾賓ニ於ケル高等法院ニ對スル贈賄說、鐵道沿線水塔ノ破壞說、機關車搬出說等ヲ耳ニシ居レリ斯ル不正行爲アルカ故ニ滿側トシテモ何トカ適當ニ處理スルコト必要ナリト考ヘ居ルナラン其ノ結果滿洲國ノ司法權ノ發動トナリタルモノト解スヘキナリ事情斯ノ如クナルヲ以テ貴官ノ觀察ハ適當ニ非ス殊ニ之ヲ東京交渉ト關聯セシメ居ラルハ甚タシキ不當ナリト思考ス東支買收問題カ纏ラサルハ種々ナル風評ノ傳ハルニ依ル結果ニシテ之カ爲人心ニ刺戟ヲ與ヘ居レリ例ヘハ蘇側カ近時頻リニ極東ノ軍備ヲ充實シ居ル事實ハ滿洲及日本側ニ刺戟ヲ與ヘ居レルカ如シ過日「ユ」大使カ廣常ニ刺戟（脱）居ル旨指摘セラレタル趣ナルカ右ハ日本側

本政府ニ申出シムルノ必要ヲ認メタル次第ナルカ若シ日本政府ニシテ滿側ヲ支持セラレサルニ於テハ滿側ハ決シテ前記ノ如キ行動ニ出テサルナルヘシ抑々東京會議ハ日本政府ノ仲介ニ依リ開始セラレタルモノニシテ平和的ニ東支問題ヲ解決セシコト望マシク同時ニ之ヲ破壞スルカ如キ手段ハ之ヲ排除スルコト必要ナリト思考ス  
何卒日本政府ニ於テ滿側ニ忠告ヲ與ヘ其ノ行動ノ不正ナルコトヲ了解セシメラレントヲ請フ旨力説セルニ付本使ハ日本政府トシテモ事態御話ノ通ナリトセハ何等力適宜ノ手段ヲ採ルナル可キモ御話ハ甚タ行キ過キタル觀察ナリト思考ス例ヘハ副局長ノ職權問題及從業員拘禁問題ニ付自分ノ觀ル處ニテハ右ハ東京交渉ト何等關聯セルモノニ非スシテ「ルデー」管理局長カ貨車問題其他ニ付獨斷專行セルコトカ問題ノ原因ナリ從來同局長ノ權限濫用ニハ滿側ニ於テ頗ル困却シ居リ其ノ爲東支ノ内部改造問題起リシモノナリ御承知ノ通一九二四年ノ奉露協定ニ依レハ共同ニテ管理スルコトトナリ居リ從テ  
滿側ハ蘇側ト同一ノ發言權ヲ持チ得ルコトトナリ居ルニ拘ラス「ルーデー」氏ハ常ニ獨斷シ居タルニ依リ之ヲ矯正セキトナリ居リ從テ

<sup>(3)</sup>「ルーデー」氏ハ常ニ獨斷シ居タルニ依リ之ヲ矯正セキトナリ居リ從テ

<sup>(4)</sup>廣田新大臣カ曩ニ當國ニ在勤セラレタル人トシテ特ニ日蘇關係ニ注意ヲ拂ヒ兩國間ノ問題解決ニ盡力サレントヲ期待シテ止マサルモノナリ我方トシテハ東京會議ニ付何等不純ノ考ヲ有スルモノニ非ス若シ東京會議ノ空氣不良ナリトセハ其ハ吾人ノ責ニアラスト認ム又蘇側カ現ニ國防上ノ措置ヲ執リツツアルハ事實ニシテ事態改善セラレサル限り將來モ之ヲ斷續スヘシ右ニ付種々論議シ居ル由ナルモ吾人ハ

國防ヲ施ササルヘカラス日本内地ニテハ對蘇開戰論者アリ吾人ハ現日本内閣力引續キ存續スルコトヲ信スルモノナル

モ事態ノ變化ニ依リテハ明日ニテモ對蘇開戰論者カ日本政

府ノ首班トナルナキヲ保セススクテ極東露領ヲ横領セント

スルカ如キ變化アルヤモ知レス從テ之ト戰フ爲ニ軍備ヲ施

スコト必要ナリ假ニ地位ヲ代ヘテ蘇聯ハ朝鮮、滿洲、旅順

ヲ占領セントスト聞カハ日本側ハ之ニ關心セサルヲ得サル

ヘシ同様ニ蘇側トシテモ日本ノ對蘇開戰論ヲ聞カハ種々心

配スルハ當然ナリ蘇聯ニハ他國ヲ侵略スルノ意圖ナク一貫

シテ平和政策ヲ執ルモノナルヲ以テ東支問題ニ付テモ之力

賣却ヲ提議シ次テ賣值ヲ減額シタルモ滿側ハ僅々五千萬圓

ヲ提議シタルノミニテ毫モ讓歩セス而モ滿側委員ハ私的會

見ニ於テ最早交渉ヲ打切ル方適當ナリト言明シ居ル由ナル

カ蘇聯政府トシテモ絕對ニ五千萬圓ニハ應シ難キニ付若シ

滿側委員ニシテ公然交渉打切ヲ言明スルニ於テハ蘇側モ何

時ニテモ之ヲ打切ルヘシ次ニ哈爾賓ニ於ケル「ルディ」管

理局長權限濫用問題ニ付若シ滿側ニ於テ職務權限ノ分配ヲ

良好ナラシムルノ希望ヲ有スルニ於テハ其旨東支理事會ニ

申出ツヘキナリ蘇側ハ副局長ノ權限擴張ニ付テハ主義上同

意ナリサレト管理局長カ滿側副局長ニ從屬スルカ如キコト

ニハ絶對ニ應スルヲ得ス

滿側ノ要求ヲ容ルレハ事實二人ノ管理局長ヲ存スルコトト

ナルヘシ滿側ニシテ若シ一方的行爲ニ依リ蘇側代表ノ權限

ヲ侵害スルニ於テハ右ハ即チ鐵道ノ橫領ト謂<sup>(フカ)</sup>ヘシ更ニ拘

禁問題ニ付高等法院贈賄云云ノ件ハ之ヲ知ラサルモ沿線水

塔ノ破壞ノ如キハアリ得ヘキコトニアラス從業員ハ常ニ東

支財產ノ保護ニ任シ居ルモノナルカ鐵道ノ警備不充分ナル

爲現ニ最近穆稜驛長ノ如キハ匪賊ノ爲殺害セラレタリ次ニ

機關車問題ニ付テハ右ハ國境閉鎖ノ口實ニ利用セラレタル

モノニシテ國境閉鎖ノ實現シタル今日右ハ既ニ過去ノ問題

トナリ居レリ從テ過去ニ搬出セラレタル機關車ノ問題ハア

リ得ヘキモ現在ハスル問題ハ有リ得サルヘキニ付日本政府

ニ於テ支持ヲ與ヘラルコトナカルヘシト思考ス貴大使ニ

於テモ以上述フル處ニ依リ予カ餘り進ミ過キ居レリトノ感

想ノ誤ナルコトヲ諒解セラレタリト思考ス滿洲ニ於ケル新

聞ニ依レハ東京交渉ニ反對ノ運動行ハレ居ルカ如シ現ニ内

田大臣モ「ユ」大使ニ對シ東京交渉開始前同交渉ニ反對者

アル旨語ラレタル由ニテ右ニ依ルモ東支鐵道橫領運動ノア

ルハ事實ナリト認メサルヲ得サル次第ナリ何卒以上述フル

處ニ依リ蘇側ノ立場ヲ諒解セラレンコトヲ望ムト述ヘタリ

依テ本使ハ議論スレハ際限ナシ大體諒解セルニ付自分ヨリ

モ意見ヲ附シ本國政府ニ申送ルヘキモ蘇側ノ軍區擴張、蘇

側ノ滿洲國境侵入事件ノ外經濟的壓迫即チ浦潮商船組ニ對

スル種々ノ壓迫並ニ浦潮出入船舶ニ對スル嚴重ナル取締規

則ノ發布及水先案内料ノ徵收等ノ爲日本ノ朝野ハ甚シク神

經ヲ刺戟セラレ居ルハ事實ニシテ斯ル蘇側ノ態度ハ軍事上

經濟上日本ニ威壓ヲ試ミ以テ東京交渉ヲ有利ニ導カントス

ルニ出テタルモノナリトノ感ヲ日滿側ニ與ヘ居ルカ如シ右

商船組ハ日本財界ノ有力ナル方面ト關係ヲ有シ日蘇貿易上

重要ナル役割ヲ演シ居ルモノナルカ同商社ハ嘗テ多額ヲ投

シ自ラ建築セシ埠頭ノ使用ニ付今同蘇側ヨリ高率ナル借料

ヲ要求セラレ業務ノ經營困難トナレル由ナリ又水先案内料

ハ高率ニシテ日本船舶ニ多大ナル打擊ヲ與フルモノナルニ

付此ノ際貴官ニ於テ此等ノ點ニ付テモ篤ト御考慮セラレ調

整ニ努メラレント切望ス最後ニ北洋方面事件解決善後

策ニ關シ豫テ貴方ヨリ與ヘラレタル回答ニ對シ今同日本政

府ヨリ更ニ對案ヲ申越シタルニ付之ヲ書キ物ニ認メ來リタ

滿ヨリ哈爾賓ヘ轉報アリタシ

滿ヨリ哈爾賓ヘ轉報アリタシ

滿ヨリ哈爾賓ヘ轉報アリタシ

滿ヨリ哈爾賓ヘ轉報アリタシ

351

昭和8年9月(24)日

在ソ連邦大田大使より

広田外務大臣宛(電報)

滿州國側による對北滿鐵道工作はソ連側に悪感と

反抗心を与えるので慎重に指導すべき旨意見具申

モスクワ 本省 9月24日前着 発

往電第四七二號ニ關シ  
第四七五號

蘇側今回ノ申出ハ言フ迄モナク滿側カ近ク行ハントスル對北鐵工作ノ内容ヲ探知シタル結果帝國ト滿洲國トノ實質的關係ニ鑑ミ事態ノ急迫セルヲ說キ我方ノ注意ヲ促シ以テ滿側ヲ掣肘セントスルニ出テタルモノト認ムヘク而シテ右工作實施ノ場合蘇側カ果シテ直ニ反擊的行動ヲ執リ來ルヤ否ヤ未タ疑問ノ餘地無キニ非サルヲ以テ我方トシテハ滿側ノ措置ヲ以テ獨立國タル滿州國主權ノ發動ト認メ得トノ趣旨ニ依リ蘇側ニ臨ミ暫ク形勢ノ推移ヲ見送ルコトモ一案ナリト說ク者アルヘシ然レ共滿側今回ノ措置ノ眞意ハ一面之ニ依リ東支買收價格ニ付蘇側ニ讓歩ヲ強ヒントスルモノナルト共ニ他面場合ニ依リテハ東支ヲ事實上滿側ノ管理經營ノ下ニ置クヘキ素地ヲ作ルニアルヤニ解セラル處蘇側ノ實勢力或ル一部ノ想像スルカ如キ疲弊ノ極ニ在リテ抵抗ノ力無キモノトセハ別問題ナルモ往電第四六二號ニテ縷述ノ如

ク決シテ輕視スルヲ許ササル實(狀)ナルヲ考慮セハ滿側ノ斯ル措置ハ徒ニ蘇側ニ惡感ト反抗心トヲ與フルモノニシテ東支ノ價格引下ノ目的ヲ達シ得サルヘキハ勿論却テ不測ノ變ヲ招來スル惧アリ即チ蘇側ハ往電第四七三號一滿側ノ行動ヲ以テ東支ヲ結局無償ニテ接收セントスルモノナリト解シ之カ對抗策ヲ講シ居ルモノノ如ク廿一日ノ會見ニ於テ「ソコルニコフ」カ本使ニ對シ

(2) 東京交渉滿側代表カ公式會議打切ヲ說カハ蘇側モ右打切ヲ辭セサル旨言明シ又蘇側ノ得タル情報力事實トシテ現ハルニ於テハ蘇側ハ到底之ヲ忍ヒ得サルヘシト說ケル點ノ如キ單ニ一片ノ掛引トノミ解シ去ルヲ許ササルモノト認メラレ或ハ蘇側ハ彼我ノ軍略的乃至最近ニ於ケル武力的要素ヲ比較シ我ニ弱點アルモノト認メ且我國內外多事ノ現狀ヲ彼ニ有(利)ニ考察シ相當鞏固ナル決意ヲ爲シタルニ非スヤトモ推測セラレ事態ノ展開如何ニ依リテハ從來ノ隱忍の態度ヲ捨て一九二九年ノ東支事變ニ於ケルカ如ク敢然反擊的行動ニ出ツル無キヲ保セススクノ如ク觀察スル時ハ滿側今回ノ措置ハ帝國ノ重大ナル責任ヲ惹起スル虞アルモノナルヲ以テ滿側ニ在ル我要人ノ滿洲國ニ對スル忠誠ハ之ヲ諒ト

スヘキモ我利害ノ重大性ニ鑑ミ政府トシテハ至急適當ナル方法ニ依リ遺憾ナク事端ノ發生ヲ未然ニ妨止セラルコト最モ必要ト存ス尙右ニ關シテハ既ニ往電第四六二號ヲ以テ卑見ヲ開陳シ置ケルモ今回蘇側ヨリ申出ノ次第アリタルニ依リ重ネテ稟申ス

滿ヘ轉電シ在歐米各大使ヘ暗送セリ  
滿ヨリ哈爾賓ヘ轉報アリ度シ

352 昭和8年9月25日 在ハルビン森島總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

北滿鐵道買收に関する東京會議においては滿州  
國側をして合理的讓歩をさせるべき旨意見具申

ハルビン 9月25日後発 本省 9月25日後着

第五八八號(極秘)

本官發滿宛電報

第五三七號

往電第五十九號ニ關シ

(1) 北鐵内蘇聯從業員ニ對スル司法的措置其ノ他諸般ノ對案

之ヲ蘇聯側ノ立場ヨリ見レハ北鐵讓渡ノ提議ハ素ヨリ内政外交上ノ政治的考慮ニ出テタルモノナリトハ雖他面之

カ決意ヲ爲スニ至レルニ付テハ機關車、貨車拉去問題以來數次ニ亘リテ滿洲國側ノ執レル現地的措置ノ爲多大ノ刺戟ヲ受ケタル結果ナルコトヲ看過シ得サルヘシ從テ今

同ノ哈爾賓ニ於ケル措置ヲ以テ飽迄地方的且司法的措置ナリトナス滿洲國側ノ立場ハ素ヨリ蘇聯ノ容認スル所ニ

非ス蘇聯トシテハ之ヲ以テ日本ノ畫策ニ出ツル政治的措置ト認ムヘキハ今次駐日蘇聯大使ノ大臣宛申入ニ鑑ミルモ明カニシテ蘇聯カ右ノ如キ見解ヲ執ル以上現地ニ於ケル今次ノ措置ハ前段豫想ノ通實際上ニ於テ東京會議促進上相當政治的效果ヲ及ホシ得ヘキ餘地アルモノト思考セ

ラル

(3) 素ヨリ此ノ點ニ付全然反対ノ見地ヨリ東京會議ヲ決裂ニ

導クノ惧アリトノ觀察モ行ハレ得ヘキモ

(イ) 蘇聯カ東京交渉ニ於ケル自己ノ立場ヲ有利ナラシムル爲出來得ル限り遷延策ニ出テツツアルモ他面當初ヨリ最モ强硬ニ固執セル北鐵所有權問題ヲ有耶無耶ニ放置シタル儘賣却値段ノ減額換算率ノ提議等ニ入り來レル

點

(4) 満洲里「ポグラ」ノ聯絡遮斷等ニ當リテハ其都度威嚇メキタル言辭ヲ弄シ乍ラ日本ニ取締ル以外別段ノ措置ニ出テス而モ日本側ヨリ何等豫期ノ結果ヲ齎シ得サリシニ抱<sup>抱</sup>ラス依然會議ヲ續クルノ態度ヲ變更セサリシ點

(ハ) 蘇聯側ニ於テハ日本國ノ責任ニ依リ東京會議ヲ決裂ニ導クトキハ滿洲國側ヲ驅リテ實力奪取ノ破目ニ導ク惧アリトノ觀測ヲ下シツツアリト認メラル等諸般ノ情況ヲ綜合スルニ蘇聯トシテハ會議ノ取纏ニ充分未練ヲ有シ居ルコト疑ノ餘地ナク從來ノ遣口ヨリ推察シ先ツ日本側ニ取締リ日本側ノ幹(旋)ヲ求ムルコトナクシテ直ニ代表引揚等ノ舉ニ出ツルコトナキモノト推察セラル

(3) 然レ共蘇聯ノ國際的立場ヲ觀ルニ北鐵讓渡ヲ我方ニ提議シ來レル當時ニ比シ英露關係ノ改善西歐諸國トノ不可侵條約ノ締結米國ノ對露接近等遙ニ有利ナル情勢ニアルニ反シ最近我國ノ立場ハ國際聯盟ノ脫退後列國ノ經濟的壓力ノ下ニ大ニ考慮ヲ要スヘキ情勢ニアル爲蘇聯側トシテハ讓渡交渉ヲ會議開始當初程ニ焦ルコトナク遷延策ニ依

リ出來得ル限り有利ナル解決ヲ得ルニ努ムヘキコト推察ニ難カラス之ニ反シ日本側トシテハ今日ヨリ海軍側制限

條約ノ期限終了ノ際ニ備フルカ爲對英、對米、對支等各方面ニ亘リ幾多考慮ヲ廻ラスノ必要アルト共ニ對蘇聯關係ヲ安定セシムルコト緊要ナルヘク對蘇關係ノ關スル限り滿洲國ハ我國ト同一ノ立場ニ立ツモノト云フヘシ從テ東京會議ニ對スル方針トシテハ合理的範圍ヲ逸脱セサル限り成ル可ク速ニ之ヲ取纏ムコト賢明ナル策ト云フ

ヘク一面現地ニ於テ蘇聯壓迫ノ手段ニ依リテ會議ノ促進ニ努ムルト共ニ他面東京ニ於テ合理的讓歩ノ方途ニ出テ交渉ノ取纏メニ盡スコト機宜ニ適スト認メラル

(5) 此ノ間ニ於テ東京會議開催以來ニ於ケル滿洲國側ノ態度ヲ見ルニ滿洲國トシテハ頭初ノ主張ヲ固持スルニ止マリ現實的ニ何等ノ讓歩ヲモ爲サス獨リ蘇聯側ニノミ讓歩ヲ強ヒ居ルモノト認ムルノ外無キ處懸引多キ蘇聯ヲシテ北鐵所有權ヲ固執セシメス五千萬圓ノ減額並ニ換算率ノ考

慮迄押詰メ得タルハ素ヨリ右ノ如キ强硬方針ノ結果ナルヘキモ今後トモ飽ク迄强硬方針ヲ以テ終始シ蘇聯ヲシテ宛モ戰敗者ノ如キ屈辱的地位ニ立タシムルハ啻ニ將來ニ

353 昭和8年9月28日 在ソ連邦大田大使より

広田外務大臣宛(電報)

亘リ蘇聯國民ノ好意ヲ繋ク所以ニ非サルノミナラス蘇聯政府當局者並ニ東京ニ於ケル代表者ヲシテ内政的ニ困難ナル立場ニ立タシムルモノニシテ延テ會議ノ進捗ニ効果有ルヘキヤ否ヤ疑ヒ無キヲ得ス之ヲ要スルニ哈爾賓ニ於ケル措置ハ東京ニ於ケル滿洲國側ノ合理的讓歩ト相俟ツニ非スンハ本交渉促進上充分ニ其ノ効果ヲ奏シ得サルモノト信ス

大臣、露ヘ轉電セリ

の報道振りについて  
北滿鐵道ソ連人職員の拘引問題につきソ連紙

の報道振りについて

モスクワ 9月28日後発  
本省 9月29日前着

第四八五號

往電第四八二號ニ關シ  
二十八日當地新聞ハ二十五及二十六日哈府發「ロスター」電  
ヲ掲ケタルカ其ノ大要左ノ如シ

哈爾賓ヨリノ報道ニ據レハ「ルーデイ」局長ハ拘引セラレ

タル蘇聯職員ノ臨時代理者任命ニ關スル命令ヲ發シタル處

二十五日朝満側副局長張明哲ハ「ルーデイ」ニ對シ蘇聯職

員ハ罷免セラレタルニ非ス其ノ代理者ハ臨時のモノナレ

ハ満洲國人タル各次長ヲシテ代行セシム可ク然ラサル場合

ニハ重大ナル措置ヲ講スヘシト言ヘルニ依リ「ルーデイ」

ハ右脅喝ハ満洲國官憲ノ計畫ヲ確認スルモノナルカ同人ハ

局長トシテ現行規定ニ基キテ行動スル旨答ヘタリ在哈爾賓

外國人側ニ於テハ今回ノ拘引ニ先立チテ爲サレタル「ソコ

リニコフ」ノ申入ハ満洲國側ノ措置ヲ暴露セルモノナリト

看做シ居レリ「スラウツキイ」總領事ハ下村事務官ニ對シ

被拘引者ノ釋放及其ノ面會ヲ要求シ又右拘引ハ東支奪取ノ

目的ニ出ツルモノナル旨ヲ指摘セリ

満洲國人タル汽車課次長ハ二十六日同課長席ニ就キ課長ノ職務ヲ執行スル代理者ナリト稱ヘ又「ルーデイ」局長ノ任命セル蘇聯代理者ニ關シテハ満洲國側副局長ノ同意無キヲ以テ認ムル能ハスト爲シ居レリ確報ニ據レハ満側ノ各次長ハ蘇聯籍新課長ノ命令並ニ右任命ニ關スル管理局長ノ命令ニ服從セサル様申渡サレ居ル趣ナリ

354 昭和8年9月29日 在満州國菱刈大使より  
廣田外務大臣宛(電報)  
在ハルビンソ連総領事は北満鐵道ソ連人職員拘引事件を滿州國側による試験的謀略で同鐵道の単独經營を目指したものではないと見なすとの情報について

新京 発

本省 9月29日前着

### 第一一五六號

哈爾賓來電第五三三號ニ關シ

廿六日哈爾賓特務機關ヨリ軍司令部ニ達シタル諜報左ノ通一、蘇聯總領事ハ左記理由ニ依リ今回ノ事件ハ満洲國側ノ試驗的謀略ニシテ單獨經營ノ意圖ノ下ニナサレタルモノニアラスト判斷シ右ノ旨廿五日「モスコー」ニ電報セリ(1)被監禁者ハ第二流ノ人物ナルコト(2)拘禁ノ語ヲ用ヒス召喚トセルコト(3)家宅搜索ト云ハスシテ同意ヲ求メタル後ノ検査ト言ヒシコト(4)犯罪事實ヲ明示セサリシコト(5)曖昧ナル説明ヲナシ隨時事件ヲ打チ切り得ル如ク準備シアリタルコト(6)新聞ニ拘禁原因ノ掲載禁止ヲナセルコト

レタル趣ナルニ付外務省當局談トシテ右報告ナルモノハ事実無根ナリト之ヲ否認シ置キタリ必要アラハ右ニ依リ御措置相成度シ

巴里宛ニハ英「ズミ」ト添書有リ度キコト

シムルニハ餘リニ小ナルヲ以テ靜觀スルコトトシ満洲國

官憲力黨部主腦者ニ迄手ヲ延ハスヤ否ヤヲ嚴重ニ監視ス

ヘキ旨ノ訓令ニ接セリ

哈爾賓、満洲里へ轉電セリ

355 昭和8年10月9日 广田外務大臣より  
在英國松平大使、在米國出席大使、  
在奉天蜂谷(輝雄)總領事他宛(電報)

モスクワにおいて報道された在満州國大使よ

り外務大臣に宛てた日本の北満工作に関する

報告は事実無根として措置すべき旨訓令

合第一八五四號 本省 10月9日後8時0分発

「普通情報」

九日東京着「タス」通信ニ拵レハ在満大使ヨリ外務省宛ノ北満工作ニ關スル報告ナルモノ「モスコー」ニテ發表セラ

臣宛第五〇七号

同右九月九日付在滿州國大使より外務大臣宛電報第一〇五二号の内容

四 十月九日発在ソ連邦大田大使より広田外務大臣宛第五〇八号

同右九月十九日付在ハルビン總領事より外務大臣宛電報第五七一號の内容

同右九月十九日付在ハルビン總領事より外務大臣宛電報第五七一號の内容

モスクワ 10月9日後発 本省 10月10日前着

第五〇三號

九日ノ當地各新聞ハ「タス」通信トシテ

九月廿一日「ソコルニコフ」ヨリ大田大使ニ又九月廿八日「ユレーネフ」大使ノ爲セル申出中ニ於テ蘇聯邦政府ハ東支ニ關シ滿洲ニ於テ行ハルル措置ニ付日本政府ノ責任ヲ明示スル日本ノ公式文書ヲ所持スル旨ヲ述ヘタリ今同「タス」ハ東支奪取計畫準備ニ關スル在滿日本軍部並ニ行政部ノ行動ニ關シ入手シタル書類ノ一部ヲ發表スヘシ是等書類ハ日本ノ役割ヲ充分明カニシ滿洲國ヲ以テ獨立國ナリトスル旨並ニ滿洲國旗ノ下ニ行ハルル奪取運動ニハ日本政府參加シ居ラサル旨ノ公

(別電一)

モスクワ 10月9日後発 本省 10月10日後着

第五〇五號

一、一九三三年九月四日附在滿日本大使發在東京外務大臣宛報告

一、今年春ヨリ滿洲國ハ北鐵ニ關シ種々ノ手段ヲ講セリ例ヘハ東支鐵道車輛ノ盜奪ヲ防止スル爲総芬河驛ニ於ケル鐵道聯絡ヲ閉鎖シ更ニ鐵道買收ニ關スル東京交渉ヲ我方ニ有利ニ向ハシムル爲幾多ノ手段ヲ講セリ滿側ハ之等手段カ東京交渉ヲ壓迫スル目的ヲ以テ實施セラルモノナルコトヲ吹聴スルヲ欲セス之等ノ手段力眞ニ内部關係ノモノナルコトヲ強調ス從テ滿洲國ハ左ノ點ヲ實行セントス

(イ) 北鐵力滿洲國主權下ニ在ル限り同鐵道及其全機關ヲ滿洲國ノ法律及其計畫ニ服セシムルコト及

(ロ) 滿洲國主權ニ背馳スル奉天及露支協定ノ諸項商業企業

トシテノ北鐵ノ一般的地位ニ適應セサル諸項、北鐵ノ現狀ニ適應セス從ツテ容認シ難キ諸項（右ハ凡テ東京會議ニ於テ讀上ケラレタル滿洲國覺書中ニモ指摘セラレ居レリ）ヲ承認セサルコト

右計畫實施上ノ具体的方法トシテ左記ノ如ク定ム

(イ) 北鐵機關ノ改革、確定運賃率及留換算率ノ設定並ニ局長ノ權限内ニ在ル諸問題ニ關シテハ滿側代理ノ署名アルヲ要シ右署名ナキ場合局長ノ行爲ハ無效タルヘキコトヲ強硬ニ主張スルコト

(欄外記入一)

右ニ關スル聲明ハ之ヲ蘇側ニ向ツテ爲シ且其實施ヲ固執ス

(ロ) 我警察及監獄官憲ハ北鐵内ニ潛在スル共產主義及「コムソモル」機關、職業組合其他非合法機關ノ家宅搜索及詳細ナル調査ヲ行フ右諸機關ノ内容ニ應シ決定的彈壓手段ヲ講シ得ヘシ反共產黨運動ヲ隨所ニ行フ鐵道奪取ノ準備方法トシテ鐵道勤務員軍警其他ノ動員ヲ行ヒ

又要所的配置ヲモ行フ各蘇側鐵道勤務員ノ狀況取調ヲ

行ヒ且東支俱樂部其ノ他公共機關ニ對シ無警告ノ臨檢ヲ行フ

(ハ國境ニ於ケル紛議ノ頻發ニ鑑ミ蘇側ノ不法行動ニ對シ嚴重抗議ヲ申入ルコト

二、在哈爾賓總領事ノ電報ニ依リ御承知ノ通り滿洲交通部力最近ノ理事會會議ニ於テ鐵道管理局長及同代理ノ權限平等ニ關スル要求ヲ提出シ又鐵道稽局ノ實施スル監督的行動ニ依リ既ニ右ノ手段ヲ實施シ居レリ

客月二十五日大橋氏ヨリ接到セル電報中ニハ東京交渉ノ停滯ニ鑑ミ積極的壓迫方法ヲ執ラレ度キ旨要望シ居リタルヲ以テ本月二日會議ヲ召集シタルカ日系官吏（廳長）及軍憲之ニ出席シ大使館ヨリハ谷參事官及花輪出席セリ

會議ハ滿洲國國務院ニ於テ行ハレタリ會議ハ新關東長官ノ到着ニ鑑ミ北滿對策ノ再検討ニ關聯シ將來ノ具体策ヲ審議セリ其際關東軍側ハ適法ナル工作ハ之ヲ是認スルモ武力ヲ適用スルヲ不適當ト認ムル旨ヲ述ヘ武力ニ訴フルニ先立チ豫メ全關係機關ト協議スルヲ必要ト認ムル旨聲明セリ

本件ニ關シ滿洲國勤務ノ日本人官吏ノ態度極メテ決定的

式聲明ヲ打消スモノナリ特ニ是等書類ニ依リ東支蘇側職員ノ拘禁ハ何等彼等ノ行爲ニ基クモノニ非スシテ日本軍施政部及滿洲國日本人官吏參加ノ會議ニ於テ裁決セラレタル奪取計畫實現ノ爲ニ行ハレタルモノナル事極メテ明瞭トナレリ

ト冒頭シ別電ノ如キモノヲ發表シ居レリ

ナルニ鑑ミ谷參事官ハ東京交渉ノ進捗上二箇月ノ間ニ既ニ換算率決定ノ問題ヲ議スルニ至リタルハ滿側ノ明カナル成功ト認ムヘク且日本カ一九三五年迄大陸ニ於テ紛議ヲ釀スコト不可能ナルニ顧レハ北鐵<sup>(欄外記入二)</sup>接收ノ必要ハ大ニアルモ不用意ナル手段ヲ避クルコトノ望マシキ次第ヲ聲明シ更ニ谷ハ滿洲國交通部ノ目論ム方策ハ鐵道ノ蘇滿共<sup>(同)</sup>管理計畫ノ進行ニシテ鐵道買收方針ニ反シ居ル旨ヲ指摘セリ遠藤總務廳長ハ閉會ニ當り問題ノ實際的解決ヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ次回會議ハ七日開催

(欄外記入三)

満<sup>ヘ</sup>轉電セリ

滿ヨリ哈爾賓ニ郵送セシム

(欄外記入一)

原文ト少シ異ナル

(欄外記入二)

滿来一〇一一号ノ一、二、三、四(中段迄)ハ露側発表ニハナシ

(欄外記入三)  
此ノ部分原文ヨリ大イニ簡単ナリ

- 編注十二 「滿来一〇一〇号ノ三」と書込みあり。
- 編注十三 「(原文ニハ括弧附々記アリ)」と書込みあり。
- 編注十四 「新關東長官」の箇所に「(原、遠遠<sup>(新)</sup>新廳長)」と書込みあり。
- 編注十五 「滿来一〇一一号ノ四末段(三)」と書込みあり。
- 編注十六 「滿来一〇一一ノ五」と書込みあり。
- 編注十七 「(原、買収ハ必要トスルモ右ハ見込アルコトナレハ無理ヲセサルコト肝要ナリ)」と書込みあり。

(別電二)

モスクワ 10月9日後発

第五〇六號

滿宛第二六號

<sup>(編注一)</sup>一九三二年九月九日駐滿日本大使發在京外務大臣宛報告

<sup>(編注二)</sup>七日<sup>(編注三)</sup>豫定ナリシ會議ハ九日ニ延期セラレ滿洲國國務院ニ於テ行ハレタリ

計議ノ後本月八日各部責任勤務員ノ列席シタル會合ニ於テ爲サレタル具體的行動案ノ審議ニ移レリ

ナルニ鑑ミ谷參事官ハ東京交渉ノ進捗上二箇月ノ間ニ既ニ換算率決定ノ問題ヲ議スルニ至リタルハ滿側ノ明カナル成功ト認ムヘク且日本カ一九三五年迄大陸ニ於テ紛議ヲ釀スコト不可能ナルニ顧レハ北鐵<sup>(欄外記入二)</sup>接收ノ必要ハ大ニアルモ不用意ナル手段ヲ避クルコトノ望マシキ次第ヲ聲明シ更ニ谷ハ滿洲國交通部ノ目論ム方策ハ鐵道ノ蘇滿共<sup>(同)</sup>管理計畫ノ進行ニシテ鐵道買收方針ニ反シ居ル旨ヲ指摘セリ遠藤總務廳長ハ閉會ニ當り問題ノ實際的解決ヲ希望スル旨ヲ述ヘタリ次回會議ハ七日開催

(欄外記入三)

満<sup>ヘ</sup>轉電セリ

滿ヨリ哈爾賓ニ郵送セシム

(欄外記入一)

原文ト少シ異ナル

(欄外記入二)

滿来一〇一一号ノ一、二、三、四(中段迄)ハ露側発表ニハナシ

(欄外記入三)  
此ノ部分原文ヨリ大イニ簡単ナリ

編注一 在滿州國菱刈大使より内田外務大臣宛電報第一〇一〇

号、一〇一一号の本文については第341、342文書参照。

編注二 「滿来一〇一〇号ノ一」と書込みあり。

編注三 「盜奪」の箇所に「(原文、返還問題)」と書込みあり。

編注四 「綏芬河驛」の箇所に「(原文、滿洲里、ポグラ)」と書込みあり。

編注五 「全機關」の箇所に「(原文、從業員)」と書込みあり。

編注六 「容認シ難キ諸項」の箇所に「(原文、並滿洲國ノ現狀ニ適セサル莫若クハ條理上不合理ナル貯)」と書込みあり。

編注七 「左記ノ如ク定ム」の箇所に「(原文、左記諸項考慮セラレ居レリ)」と書込みあり。

編注八 「滿来一〇一〇号ノ二」と書込みあり。

編注九 「確定」の箇所に「ナシ」と書込みあり。

編注十 「監獄官憲」の箇所に「(原、檢察當局)」と書込みあり。

編注十一 「無警告」の箇所に「(原文ナシ)」と書込みあり。

編注十二 「(編注六)假留保ノ條件ノ下ニ右案ヲ實施スルコトニ一致決定セリ軍側及當大使館ハ當局各部ニ詳細ノ報告ヲ爲シタリ如上ニ關シ御意見至急電報アリ度シ

(一)ノ(二)ニ關シテハ若シ警察ノ襲撃ヲ廣汎ニ亘リテ行ヒ顯官ヲモ捕縛セサル可カラサルニ於テハ豫メ合同會議ヲ行フ

(二)案ノニヲ<sup>(編注八)</sup>實施スルコトハ事實上困難ナルヲ以テ右實施ハ時宜ニ從ヒ出來得ル範圍ニ於テ之ヲ行フ

(二)案ノ五ハ豫メ調査ヲ遂ケタル後實施ス菱刈満<sup>ヘ</sup>轉電シ滿ヨリ哈爾賓ニ郵送セシム

(欄外記入一)

滿来一〇五一ノ中段ハナシ

(欄外記入二)

滿来一〇五一ノ二ノ冒頭ヨリ中段終迄ナシ

編注一 在滿州國菱刈大使より内田外務大臣宛電報第一〇五

号の本文については第343文書参照。

編注二 在滿州國菱刈大使より内田外務大臣宛電報第一〇五  
号の発電日は九月十日。

- 編注三 「満来一〇五一ノ一（前段）」と書込みあり。
- 編注四 「（満来一〇五一ノ二ノ末段迄原文ニハ長文ノ部分アリ）」と書込みあり。
- 編注五 「（此ノ間ニ原文ニハ長文ノ部分アリ満来一〇五一ノ一ノ末尾）」と書込みあり。
- 編注六 「満来一〇五一ノ二（末段）」と書込みあり。
- 編注七 「（二）の箇所に「（原文四トナリ居レリ）」と書込みあり。
- 編注八 「（原文、直二）」と書込みあり。

## (別電三)

第五〇七號

モスクワ 10月9日後発  
本 省 10月10日前着

(欄外記入一)  
 三、一九三三年九月九日駐満日本大使發在京外務大臣宛報告  
 (一) 稽核局其ノ他ノ北鐵機關ヲ利用シテ蘇側勤務員ノ不法行為之ヲ調査シ右審査ノ爲之ヲ營業部及警察廳ニ交付スルコト之力爲  
 イ、稽核局ニ右資料蒐集並ニ審査ヲ許可ス

## (別電四)

第五〇七號

(欄外記入一)

森田交通部長及其他在哈日滿各機關官吏（満人タル官吏ヲ除ク）等ハ前顯貴電ノ課題實施方法ヲ審議シタル結果現地ノ實力ヲ以テ之ヲ實現スルニ決セリ

一、イ、貴電第一項ニ關シテハ本月中旬機關車搬出ノ責任者六名並ニ鐵道資金ノ不法支出者一名ヲ逮捕拘引スルニ決セリ即チ（イ）機務處長「カリーナ」（ロ）機關庫長「ラヴロフ」（ハ）車務處調度科長「アブロフ」（ニ）財務處長「クリ」（ホ）満洲里驛機關庫長「シツツエンコ」（ヘ）満洲里驛長「アブラメンコ」（ト）綏芬河驛長「アトウイリ」（ロ、北）鐵稽核局ハ前記違法事件ヲ法院ニ告訴ス

ハ、滿洲里及綏芬河驛在住者ハ國境警備隊之ヲ逮捕シタル上哈爾賓へ押送シ同地ニ於テ被逮捕者全部ノ一括訊問ヲ爲ス

二、行動ノ統一ヲ計ル爲實行委員會ヲ組織ス

ホ、前記工作實行ニ當リ凡テノ情報ハ警務司長之ヲ發表シ個人的紙上發表乃至宣傳ハ一切之ヲ禁ス

ヘ、逮捕ニ際シ妨害又ハ破壊的行爲ニ及フ者アル時ハ直（羅注十三）二武器ヲ使用スル事ヲ得

ト、北鐵稽核局ノ取調實施ヲ待チテ第二次逮捕ヲ行フ

チ、事件毎ニ中央ノ指令ヲ仰ク時ハ機（羅注十四）宜ヲ失スル惧アル  
ヲ以テ細目ノ考究ハ現地ニ一任ス

二、貴電第三項ハ同電第一項ノ實施ヲ待チテ十月十日乃至十五日頃實施ス

滿（羅注十五）ヘ轉電シ滿ヨリ哈爾賓ニ郵送セシム

（欄外記入一）  
完全ニ一致

（欄外記入二）  
哈來五七一ノ二ノ末段三ナシ

編注一 在哈爾賓森島總領事より廣田外務大臣宛電報第五七号については346文書参照。

編注一 「哈爾賓來五七一ノ一」と書込みあり。

編注三 「局長」の箇所に「（原、司長）」と書込みあり。

編注四 「部長」の箇所に「（原、部司長）」と書込みあり。

編注五 「現地ノ實力ヲ以テ之ヲ實現スルニ決セリ」の箇所に「（原、右ノ如ク現地ノ意見ヲ決定セリ）」と書込みあり。

編注四 「許可」の箇所に「（原、強化）」と書込みあり。

編注五 「事由」の箇所に「（原、案）」と書込みあり。

編注六 「法務司警務司及路政司」の箇所に「（原文、路、警、法ノ順序）」と書込みあり。

編注七 「交通部」と「ハ理事長」の間の箇所に「（原文、総長）」と書込みあり。

編注八 「行爲並命令」の箇所に「（原文、発令）」と書込みあり。

編注九 「交通部」の箇所に「（原文、総長）」と書込みあり。

編注十 「商業學校」の箇所に「（原工業大學）」と書込みあり。

編注十一 「豫告無ク」の箇所に「（原文ニナシ）」と書込みと書込みあり。

編注十二 「共產主義的機關」の箇所に「（原、共產運動）」と書込みあり。

編注十三 「外務部監督局」の箇所に「（原、哈爾賓稅務監督局）」と書込みあり。

編注十四 「召喚」の箇所に「（原文ニナシ）」と書込みあり。

（別電四）

モスクワ 10月9日後発  
本省 10月10日前着

第五〇八號

滿（羅注十六）死第二八號  
四一九三三年九月十九日附在哈日本總領事發在滿日本大使宛報告

本十九日特務機關内ニ於テ長尾警務司長、栗山法務局長、

編注十五 「外務部」の箇所に「（原、財務部）」と書込みあり。

編注十六 「警務司長、法務司長、路政司長」の箇所に「（原、路、警、法ノ順序）」と書込みあり。

編注十七 「其ノ他ノ指導者」の箇所に「（原文、等ノ文字）」と書込みあり。

編注十八 「密接ナル」の箇所に「（原、適當）」と書込みあり。

編注十九 「國務院」の箇所に「（原、總務廳）」と書込みあり。

編注六 「機關庫長」の箇所に「（原、鐵道工場長）」と書

込みあります。

編注七 「車務處調度科長」の箇所に「（原、行車調度科長）」と書込みあります。

編注八 「（クーブリ）」と「（ホ）満洲里驛機關庫長」の間の箇所に「（原、以上在哈尔滨）」と書込みあります。

編注九 「哈來五七一ノ二」と書込みあります。

編注十 「違法事件」の箇所に「（原、不法行為者）」と書き込みあります。

編注十一 「實行委員會」の箇所に「（原、關係機關ニ於テ搜查委員会）」と書込みあります。

編注十二 「逮捕」の箇所に「（原、搜索並ニ逮捕）」と書き込みあります。

編注十三 「武器ヲ使用スル事ヲ」の箇所に「（原、一網打盡的彈壓ヲ加フ）」と書込みあります。

編注十四 「機宜ヲ失スル惧アルヲ以テ」の箇所に「（原、又秘密漏洩スル虞アルヲ以テ）」と書込みあります。

編注十五 「（原文ニハ尚未尾ノ部分アリ）」と書込みあります。

編注十六 「武器ヲ使用スル事ヲ」の箇所に「（原、一網打盡的彈壓ヲ加フ）」と書込みあります。

編注十七 「（原、機宜ヲ失スル惧アルヲ以テ）」と書込みあります。

編注十八 「（原、又秘密漏洩スル虞アルヲ以テ）」と書込みあります。

編注十九 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注二十 「（原、機宜ヲ失スル惧アルヲ以テ）」と書込みあります。

編注廿一 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿二 「（原、機宜ヲ失スル惧アルヲ以テ）」と書込みあります。

編注廿三 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿四 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿五 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿六 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿七 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿八 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注廿九 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注三十 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅一 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅二 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅三 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅四 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅五 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅六 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅七 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅八 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

編注卅九 「（原、武器ヲ使用スル事ヲ）」と書込みあります。

昭和8年10月10日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)  
ソ連側による我が方文書の公表に關しソ連紙  
の報道振りについて

モスクワ 10月10日後発  
本省 10月11日前着

第五〇九號

往電第五〇三號ニ關シ

十月ノ「イズヴエスチヤ」ハ「満洲ニ於ケル冒險ニ對スル日本政府ノ責任」ニ關スル文書、「プラウダ」ハ「日本ノ掠奪者ノ假面ヲ剥ク」ノ文書及「ザ、インダストリアリザツィユ」紙ハ「證據ヲ摘マル」ナル見出ノ社説ヲ掲載セルカ其ノ要旨左ノ通  
「イズヴエスチヤ」

東支ノ事態ニ關シテハ九月二十一日以來蘇側ヨリ莫斯科及東京ニ於テ日本政府ニ警告ヲ與ヘタルニ日ナラスシテ蘇側職員ノ拘禁行ハレ日滿側ハ右蘇側職員ニ代フルニ満洲國人ヲ以テセントセル處右ハ東支奪取計畫實行ノ前提ナルコト判明シタルニ依リ蘇側ヨリ日本外務大臣ノ注意ヲ喚起シ必

ノナリ

日本政府ノ逃口上ハ滑稽ニテ今ヤ日本ノ奪取者ノ假面ヲ剥ク公文書ハ公ニセラレ蘇聯及世界ノ勤勞大衆ハ何人力北鐵ニ對スル冒險ヲ指導シ居ルヤ又何人力極東ニ於テ日蘇關係ヲ輕卒ニ弄ヒ居ルヤヲ納得スルヲ得タリ

日本帝國(脱?)北鐵奪取計畫ヲ進メタルヤヲ事實上證明スルモノナリトシ同文書ナルモノヲ引用說述シタル上此ノ計畫作成者タル稀有ノ冒險者流力同計畫實行ニ伴フ政治的危險ヲ了解セルコトハ是等及東京ノ指導者カ此ノ點ニ付充分ノ考慮ヲ拂ヘルニ徵シ明ニシテ北鐵奪取計畫ニ日本政府カ無關係ナリトノ主張ヲ眞面目ニ取ル者アルヘキヲ期待スルヲ得サルヘク日本政府ノ北鐵主義者ハ全世界ノ前ニ其ノ假面ヲ剥カレ前記文書ニ依リ日本政府ノ眞意及職品ト共ニ捕ハレタル東京ノ奪略者ノ正體ハ暴露セラレタルカ日本政府ハ蘇聯政府カ二回ニ亘リ警告セル責任ヲ回避シ得サルヘシ

「ザ、インダストリアリザツィユ」紙

昨日「プラウダ」ニ發表セラレタル日本ノ公文書ハ北鐵關係諸條約違反、北鐵蘇聯從業員迫害、北鐵奪取工作實行ニ奪取ノ煽動者且指導者ナルト共ニ蘇聯ニ對スル自己ノ義  
對スル日本政府ノ責任ヲ完全ニ實證シ日滿冒險者流力如何  
ニ奪取ノ煽動者且指導者ナルト共ニ蘇聯ニ對スル自己ノ義

右文書ハ一北鐵ノ問題ニ止マラス事態急迫セル極東ノ平和保持ニ關係アリ北鐵ニ於テ日本代表ノ指導スル怪奇ナル挑發準備機關力馬力ヲ掛け居ル時東京交渉ニ於テ日本代表力平和愛好者ノ役割ニ汗ダクダクナルカ右一人ニ役ハ今ヤ暴露セラレタリ蘇聯ハ北鐵ニ於テ行ハレタル平和ヲ脅威スル事件ニ直面シ相手方ノ欺瞞ヲ素破抜クヲ自己ノ義務ト思惟セリ日本軍閥カ北鐵奪取計畫ヲ以テ平和ノ爲ニ最大危險ヲ孕ム帝國主義的計畫ノ連鎖ノ一ナリト爲シ居ルハ日本滿洲侵略史ノ教ユル所ナリ日本軍閥者流ハ自己ノ計畫ヲ秘スルヲ不要ト認メ公然蘇聯ニ挑戦スルコトハ浦潮、沿海州奪取ノ要求ヲ内容トスル幾多ノ日本新聞記事ヲ引用スルヲ得ヘク又松岡氏ノ如キハ客年十二月ノ聯盟會議ニ於テ日本ノ支配團体中ニハ對蘇豫防戰ヲ利トスル傾向アル旨直言セルカ蘇聯ノ脅威ヲ云々スルハ今日ヲ以テ侵略計畫實行ノ好機ト思惟スル日本帝國主義者ノ宣傳ヲ隱蔽スルニ過キス日本新聞ノ傳フル所ニ依レハ日本ニ於テ勢力大ナル軍部ハ侵略方針ヲ固執ストノ事ナルカ蘇聯ノ勞働大衆ハ充分ナル政治的試練ヲ經且外國干渉ノ教訓ヲ記憶スルモノナリ蘇聯力平和ヲ欲スルハ周知ノ通ナルカ黨ノ根本方針ニ基ク工業化ノ結果

政府沒落ノ誘因トナルヲ恐レタルニ因ルモノト一般ニ信セラレタルカ今回突如トシテ露國ノ對日態度ノ強化シタルハ本年度ニ於ケル農產物ノ收穫良好ナルト國內ノ一般秩序頓ニ改善セラレタルトニ依ルモノノ如シ

「ニューヨークヘラルドトリビューン」（十二日）

今回露國政府ニ依リ發表セラレタル怪文書ナルモノノ眞偽ハ最早問題ニアラス日露兩側カ互ニ之ヲ以テ相手側ヲ責ムル具トナシ兩國ノ關係緊張セル事態コソ注意ニ值ス即チ日本軍部ハ陸軍豫算膨脹ノ已ムヲ得サル理由トシテ日露衝突ノ避ケ難キヲ公言シ着々準備ヲ進メ露國亦實力ノ試練ニ服スルノ用意アルカ如キ觀フ呈シ居レリ因ニ前記文書カ果シテ真正ノモノトセハ從來努メテ日本トノ衝突ヲ避ケ親善ヲ保持セントシ居タル露國トシテハソノ發表ヲ禁止スルカ或ハ内密ニ日本ト交渉スルカ何レカノ方法ヲ採リタル筈ノ様ニモ思ハル

<sup>(2)</sup> 華府「ニュース」所載「スクリップス、ハワード」外報部長「シムズ」論旨（十二日）

北滿鐵道ニ關スル日露ノ紛争ハ表面ニ現ハレ居ルヨリモ重大ナリ何トナレハ日露兩國ノ利害關係ハ鐵道問題ヲ離レテ

右文書ハ一北鐵ノ問題ニ止マラス事態急迫セル極東ノ平和保持ニ關係アリ北鐵ニ於テ日本代表ノ指導スル怪奇ナル挑發準備機關力馬力ヲ掛け居ル時東京交渉ニ於テ日本代表力平和愛好者ノ役割ニ汗ダクダクナルカ右一人ニ役ハ今ヤ暴露セラレタリ蘇聯ハ北鐵ニ於テ行ハレタル平和ヲ脅威スル事件ニ直面シ相手方ノ欺瞞ヲ素破抜クヲ自己ノ義務ト思惟セリ日本軍閥カ北鐵奪取計畫ヲ以テ平和ノ爲ニ最大危險ヲ孕ム帝國主義的計畫ノ連鎖ノ一ナリト爲シ居ルハ日本滿洲侵略史ノ教ユル所ナリ日本軍閥者流ハ自己ノ計畫ヲ秘スルヲ不要ト認メ公然蘇聯ニ挑戦スルコトハ浦潮、沿海州奪取ノ要求ヲ内容トスル幾多ノ日本新聞記事ヲ引用スルヲ得ヘク又松岡氏ノ如キハ客年十二月ノ聯盟會議ニ於テ日本ノ支配團体中ニハ對蘇豫防戰ヲ利トスル傾向アル旨直言セルカ蘇聯ノ脅威ヲ云々スルハ今日ヲ以テ侵略計畫實行ノ好機ト思惟スル日本帝國主義者ノ宣傳ヲ隱蔽スルニ過キス日本新聞ノ傳フル所ニ依レハ日本ニ於テ勢力大ナル軍部ハ侵略方針ヲ固執ストノ事ナルカ蘇聯ノ勞働大衆ハ充分ナル政治的試練ヲ經且外國干渉ノ教訓ヲ記憶スルモノナリ蘇聯力平和ヲ欲スルハ周知ノ通ナルカ黨ノ根本方針ニ基ク工業化ノ結果

セリ日本軍閥カ北鐵奪取計畫ヲ以テ平和ノ爲ニ最大危險ヲ孕ム帝國主義的計畫ノ連鎖ノ一ナリト爲シ居ルハ日本滿洲侵略史ノ教ユル所ナリ日本軍閥者流ハ自己ノ計畫ヲ秘スルヲ不要ト認メ公然蘇聯ニ挑戦スルコトハ浦潮、沿海州奪取ノ要求ヲ内容トスル幾多ノ日本新聞記事ヲ引用スルヲ得ヘク又松岡氏ノ如キハ客年十二月ノ聯盟會議ニ於テ日本ノ支配團体中ニハ對蘇豫防戰ヲ利トスル傾向アル旨直言セルカ蘇聯ノ脅威ヲ云々スルハ今日ヲ以テ侵略計畫實行ノ好機ト思惟スル日本帝國主義者ノ宣傳ヲ隱蔽スルニ過キス日本新聞ノ傳フル所ニ依レハ日本ニ於テ勢力大ナル軍部ハ侵略方針ヲ固執ストノ事ナルカ蘇聯ノ勞働大衆ハ充分ナル政治的試練ヲ經且外國干渉ノ教訓ヲ記憶スルモノナリ蘇聯力平和ヲ欲スルハ周知ノ通ナルカ黨ノ根本方針ニ基ク工業化ノ結果

果蘇聯ノ地位ハ鞏固トナリ外敵ノ襲撃ヲ防止スルニ足ルモノニシテ白軍及帝國主義的干涉者ヲ擊退セル一九一七年乃至二〇年ニ比スレハ遙カニ强大トナレルヲ以テ蘇聯ノ寸毫ノ地ニナリトモ爪牙ヲ延ハサントスルモノアラハ之ニ對シ更ニ大ナル反撃ヲ與フ可シ

358 昭和8年10月19日 在米國出淵大使より  
広田外務大臣宛（電報）

ソ連側による我が方文書発表以後の日ソ間緊張について

張について米國紙の報道振りについて

ワシントン  
本省 10月19日前着 発

第七五〇號  
往電第七四二號ニ關シ

其後文書發表事件ニ伴フ日露關係ノ緊張ヲ取扱ヘル主ナル新聞論調左ノ通り

「ニューヨークタイムス」（十二日）

北滿鐵道問題ニ對スル直接ノ脅威ナリト爲スヘク衝突ノ危險ハ此處ニ存スヘシ況シヤ政權ヲ左右シツツアル日本軍部カ國防安全ノ必要上何時カハ浦潮ヲ含ム沿海州ヲ占領セサルヘカラスト考ヘ居ルニ於テヲヤ

費府「パブリック、レッヂヤー」（十五日）

露國政府ノ公表セル文書カ全然偽造ナリヤ否ヤハ大シタル問題ニアラス要ハ露國カ戰爭ノ危險ヲ犯シテ迄自己ノ權利ヲ擁護セントスルヤ否ヤニ在リ

費府「インクワイヤー」（十五日）

露國政府ノ文書公表ハ明カニ戰爭ノ原因タリ得ヘシ日本ハ露國ヲ支那同様ニ容易ニヤツツケ得ヘシト考ヘ居ルヤモ知レサルモ果シテ然リトセハ日本ノ思違ヒナルヘク勞農軍ハ日露戰爭當時ノ帝政露軍ヨリハ遙ニ強カルヘシ然シ露國ハ其ノ產業組織ニ鑑ミ日本ヨリ戰爭ヲ強ヒラレサル限り自ラ

進ンテ事ヲ構フル事ハ爲ササルヘシ

紐育「ウォール、ストリート、デヤーナル」（十六日）

露國ノ有ユル新聞カ一齊ニ痛烈ナル反日的論説ヲ掲ケ且ツ

日本ノ北滿鐵道占領ノ陰謀ヲ報道シタルハ注意スヘキ事ニ

テ日露風雲急ナリトノ尊專ラニシテ波蘭ノ軍事工場ハ露國ノ註文殺倒シ活氣ヲ呈シ西比利亞鐵道ハ改善セラレ露國陸軍ハ西比利亞方面へ集中セラルトモ傳ヘラル處果シテ露國ハ開戦ノ準備ヲ爲シツツ在ルモノナリヤ又ハ北滿鐵道交渉ノ掛引ヲ爲シ居ルモノナリヤ疑問ナリ何レニセヨ日露ノ關係ハ太平洋方面ニ於ケル米國ノ將來ニ重大ナル關係ヲ有ス

華府「ヘラルド」所載「ブリスベン」論旨（十六日）

北滿鐵道ノ紛争ニ關シ日露兩國ハ例ニ依リ衷心戰爭ヲ避ケント欲スト稱シ居ル處兩軍トモ充分戰備整ヘリトモ傳ヘラル兔ニ角戰爭トナレハ露國ノ能率ハ再ヒ興味アル高價ナル試練ヲ受クル事トナラン

359 昭和8年10月21日 広田外務大臣より

在英國松平大使他宛（電報）

シ明白ニ説明シ置キタル所ナリ）仍テ右發表後直ニ前記文書ハ無稽ノ事實ヲ傳フル偽文書ナル旨發表セル次第ナリ

#### 連紙報道振りについて

モスクワ 10月29日後発  
本省 10月30日前着

#### 第五五八號

二、「ソ」聯邦政府カ右ノ如キ發表ヲ爲シタルハ諸種ノ目論見アルヘキモ其一目的ハ之ニ依リ東京ニ於ケル北滿鐵道ニ關スル交渉ノ歸結ニ付何等力自方ニ有利ナル立場ヲ作ラントスルニ在リタルモノトモ推察セラレサルニ非サル處帝國政府ニ於テハ北鐵工作カ東京交渉トハ全然別箇ノ性質ヲ有スルモノナル旨屢次「ソ」側ニ説明シタルニ不拘先方ハ滿洲ニ於ケル一切ノ事件ヲ帝國政府ノ責ニ歸セシメントスル從來ノ態度ヲ捨テス遂ニ今同ノ不信行爲ヲ敢テシタルモノト斷セサルヲ得ス（以下別電）

編注 別電見当たらず。

360 昭和8年10月29日 在ソ連邦大田大使より  
廣田外務大臣宛（電報）

北滿鐵道ソ連側職員拘引問題に関するバンドー  
ラ副理事長代理から李督弁への抗議につきソ

ソ連側による我が方文書発表は北滿鐵道讓渡に關する東京交渉を有利にするため行なつたとの観測について

本省 10月21日後9時45分発

#### 合第一九二八號

一、最近「ソ」聯邦政府カ「タス」通信社ヲシテ發表セシメタル在滿帝國大使發外務大臣宛報告及在哈爾賓帝國總領事發在滿帝國大使宛報告ノ内容ナルモノ及之ニ附加セラレタル「タス」通信社ノ説明ニハ恰モ近時北滿鐵道ニ對スル奪取計畫カ準備セラレオリ曩ニ發生シタル同鐵道從業員逮捕事件モ該計畫ノ一部ヲ實現シタルモノニシテ而モ在滿帝國官憲カ右計畫ニ關與シ同鐵道ニ對スル「ソ」聯邦ノ權益ヲ不法ニ排除セントスルモノナルカノ如キ記述アリ然ル處同鐵道ニ對スル帝國政府ノ公正ナル態度ハ從來屢々宣明シタル通ニシテ其間帝國官憲ノ行動ニ於テ毫モ間然スル所アルナシ尙前記從業員逮捕事件ノ如キハ純然タル刑事事件トシテ滿洲國當局ノ手ニ依リ處理セラレオルモノニシテ帝國政府トシテ何等干與スヘキ限ニ非ス（此點ハ既ニ囊ニ本大臣ヨリ在京「ソ」聯邦大使ニ對

貴下ハ崔稽核局長カ局長タル資格ニ於テニ非ス個人トシテ行動セルモノナル旨申出テラレタリ依テ貴下ハ國法カ稽核局長ニ對シ局長タル身分ニ於テ東支課長等ノ鐵道事業ニ關係スル行爲ニ付自主的ニ告發スル權利ヲ附與シ居ラスト爲ストノ主張ノ正當ナルヲ遂ニ認メタルコトトナル次第ナリ而シテ事件カ稽核局長ニ非ス個人ニ依リ挑發セラレタルモノナル以上東支ノ合法的機關以外ノモノノ爲セル總テノ告發ノ根據薄弱ナル事ハ尙一層顯著ナリ崔局長カ一般市民ト同様個人ノ資格ニ於テ檢事ニ告訴スル權利ハ否定セサルモ

如キ官憲ノ權限ハ之ヲ否定セサルヲ得ス最初貴下ハ蘇側職

員六名ノ家宅搜索及逮捕ハ稽核局長ノ報告ニ基キ檢事之ヲ

執行セリト云ヒタルニ後ニハ崔局長ハ個人トシテ行動セリ

ト云ヒ前言ヲ覆ヘセリ貴下ハ管理局長ノ行爲ヲ非難セルモ

同局長ハ法律上ノ根據ニ基キ行動スルモノニシテ自己ノ權限ヲ以テ幹部職員ヲ任命セントセル張滿側副管理局長ノ企圖並之ニ對スル警察官憲ノ助力コソ不法ナリ之ヲ要スルニ滿側ノ任命ハ明ニ滿人ヲ以テ蘇聯人ニ代ヘンコトヲ目的トセルモノナリ這ハ管理局長ノ權限ヲ奪ヒ且鐵道其ノ物ヲ奪取スル發端ニ非シテ何ソヤ蘇側ハ鐵道事業ヲ破壊スル行為ニ付重ネテ抗議セサルヲ得ス右行爲ニ對スル責任ハ當然滿側官憲ノ負フ可キ處ナリ云々

361 昭和8年11月16日 在ソ連邦大田大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### 北滿鉄道買収問題等日ソ間諸懸案に關しソ連

#### 極東部長代理の談話について

付 記 昭和九年一月十七日付、作成局課不明

北滿鉄道問題などに関する東郷欧米局長・在

本邦ユレネフソ連邦大使会談要旨

モスクワ 11月16日後発

本 省 11月17日前着

#### 第五八九號(極秘)

豫テ極東部長代理ト酒匂トノ間ニ相互ノ懇親ヲ計ル爲時々小集會ヲ催スヘキ打合ヲ爲シタルカ十五日先方ノ招待ニ依リ當方酒匂外五名先方部長代理外三名觀劇ノ後外務部迎賓館ニ於テ夜食ヲ共ニシタリ其間部長代理力酒匂ニ語レル談話中参考トナルヘキ點左ノ通り

酒匂カ「カズロフスキ」ノ消息ヲ尋ネタルニ關聯シ部長代理ハ蘇側ニ於テ東京會議ノ進捗ヲ希望シ居ルコトハ從前ト變リナク此ノ點ハ今尙「カ」初メ他ノ代表者ヲ滯京セシメ居ルニ依リテモ推知セラル所ナルヘキモ現下ノ如ク滿洲側ニ依リ何等罪ナキ蘇聯要人力政略的ニ逮捕拘禁セラレ脅迫ヲ受ケ居ル狀態ノ下ニ於テハ之カ再開ニ應セサルコトニ決定シ居レリ去リトテ蘇側代表者ヲ歸國セシムルトセハ會議決裂ノ責ヲ負フコトトナリ大橋氏一派ニ満足ヲ與フルニ過キサルヲ以テ之ヲ躊躇シ居ル實情ナリ日本カ蘇聯ノ立場ニ在リトセハ恐ラク同様ノ態度ニ出テラルモノト考フ

ル旨語リ酒匂カ蘇聯人拘禁ノ如キハ廣田大臣カ「ユ」大使ニ述ヘラレタル通り滿洲國司法權ノ發動ニ依ルモノニシテ派生的事項ニ非スヤト語リタルニ部長代理ハ本夜ハ議論ヲ避ケタク蘇側トシテハ曩ニ發表ノ文書其他ノ信スヘキ書類ニ依リ此ノ間ノ真相ヲ熟知シ居ル次第ナルヲ以テ日本側ニ於テ速ニ拘禁者釋放方措置アランコトヲ希望スト述ヘ酒匂カ自分トシテハ蘇側ニ第二ノ「ヤードレイ」アルニ非スヤト考ヘ居ル旨語リタルニ部長代理ハ初メ當局ハ該文書ヲ入手セル經路ハ之ヲ知ルニ由ナシト答ヘタルモ日本語ハ難解ナルカ故ニ電文ノ解讀ニ依リテハ曩ニ發表ノ如ク全文ヲ完全ニ知ルコト殆ト不可能ナルヘク兎ニ角蘇側ノ入手セル原文寫ナルコト丈ケハ確カニシテ未タ發表セサル分モ同様ナリ云々ト内話セル趣ナリ

職員釋放問題ニ關シ哈爾賓ニ於ケル六名ノ釋放、無條件タルヲ要スル様御話アリタル趣ナルガ元來無條件ニ六名ヲ釋放スヘシト言フハ貴方最近ノ所言ト幾分相違シ居リ又滿洲國側ニ於テハ六名ヲ有罪ト考ヘ居リンモ日本側ヨリ大局ニ鑑ミ釋放シテハ如何ト勸告セル結果六名ノ歸國ヲ條件トシテ釋放スルニ決定シタルコト故貴方ニ於テ無條件釋放ヲ主張セラルルニ於テハ昨日大臣ノ話サレタル通リ局面ノ紛糾ヲ見ルヘキハ必然ナルニヨリ無條件釋放ハ不可能ナルコト考フ

大使、本使力曩ニ廣田大臣ニ御話シタル趣旨ハ滿洲國ニ於テ釋放スル場合其ノ形式ハ同國ノ自由ナルヘキモ自分ニハ右問題ニ關シ權限無キ故本國政府ニ照會スヘキ旨ヲ答へタル次第ナル處右照會ノ結果本國政府ヨリ無條件釋放ヲ必要トスル旨回訓ニ接シタル譯ナリ六名力釋放セラレタル後ニ於テハ北鐵「ソ」側幹部ニ於テモ事態ヲ考慮シテ處置スルコト思考スルニ付釋放ト歸國トハ之ヲ別ニスルコト適當ナリト思考ス

付本問題ニ關スル話合成立セサルニ於テハ有罪ノ判決ヲ局長、一月十五日大使ハ廣田大臣ト會談ノ際北鐵「ソ」側

#### (付記)

昭和九年一月十六日東郷歐米局長「ユレーネフ」大使ヲ往訪シ北鐵「ソ」側職員釋放問題其他ニ關シ午後四時半ヨリ時餘ニ涉リ會談セリ。其ノ要旨左ノ通

局長、一月十五日大使ハ廣田大臣ト會談ノ際北鐵「ソ」側

下スコトナルへク然ル場合「ソ」側從來ノ態度ヨリス  
レハ自然交渉再開ヲ差控フルノ止ム無キコトトモナルヘ  
シ其ノ結果交渉再開不能トナル惧アル處再開セラレサル  
限り北鐵賣却問題ノ解決ハ不可能ナリ斯クテハ貴使ノ言  
フ國交改善モ困難ナラスヤ、要點ハ六名ノ釋放ニ在ルコ  
ト勿論ナルモ釋放ノ上ハ之ヲ歸國セシムルコトヲ明ニシ  
置クコト絕對ニ必要ナリ

大使、打明ケテ言ヘハ實ハ昨十五日廣田大臣ヨリ會議再開  
前ニ「ソ」側ノ價格ヲ明示スヘキナリト激シキ語氣ニテ  
要求アリ之ハ「モスコ一」ニ對シテモ好キ印象ヲ與ヘサ  
ルヘキヲ惧レ居ル次第ナリ

局長、大臣ハ調停者トシテ話力纏ル見込アリヤ否ヤヲ知ラ  
ムトセルニ過キサル様承知シ居レリ同大臣カ「ソ」側ニ  
強壓ヲ加ヘ滿洲國側ニ有利ナラシメントノミ計リ居ルモ  
ノト諒解セラルルカ如キハ不當ナリ

大使、廣田大臣ノ平等ノ氣持ハ良ク之ヲ諒解シ居レリ兎ニ  
角歸國ヲ條件トシテ六名ヲ釋放スル趣ハ「モスコ一」ニ  
傳達スヘシ

局長、日「ソ」國交ノ大局ヨリ見テ此ノ際歸國ヲ條件トシ  
ノト諒解セラルルカ如キハ不當ナリ

大使、打明ケテ言ヘハ實ハ昨十五日廣田大臣ヨリ會議再開  
前ニ「ソ」側ノ價格ヲ明示スヘキナリト激シキ語氣ニテ  
要求アリ之ハ「モスコ一」ニ對シテモ好キ印象ヲ與ヘサ  
ルヘキヲ惧レ居ル次第ナリ

局長、本問題ヲ解決セスシテハ日滿「ソ」間ノ關係ハ改善  
セラレサルヘキニ就テハ賣ル方モ大ナル政治的見地ヨリ  
考フレハ本問題力單ナル金錢問題ニ非サルコトヲ了得セ  
ラルヘシ

大使、然リトスルモ餘リニ少額ニテハ不可ナリ北鐵ハ經濟  
的價值ヲ有ス

局長、經濟的價值ヲ有スト言フモ右ハ漸次減退スル一方ニ  
テ現ニ拉賓線ニ依リ其ノ經濟的價值ハ渺ラス減少セリ

大使、「ソ」側トシテハ誠意ヲ以テ本問題ヲ解決シ尙日  
「ソ」兩國間ノ關係ヲ改善シ度キ次第ニシテ右ハ「ソ」  
側ノ一貫セル意向ナリ

局長、然シナカラ「モーロトフ」及「リトヴィーノフ」ノ  
演説ハ餘リニ激シカラスヤ、何レノ國ニモ熱狂的愛國者  
アルヲ以テ相手國政治家ハ此等ノモノヲ激昂セシメサル  
様仕向ケルヲ賢明トスルニ非スヤ

大使、局長ノ意見ニハ同感ナルカ「モーロトフ」及「リト  
ヴィーノフ」ノ演説モ其ノ氣持ハ國交ノ圓滿增進ヲ念ト  
スル趣旨ナルコトヲ諒解セラレ度現ニ自分モ兩國國交ヲ  
改善シタキ趣旨ニテ交渉シ居ル次第ニシテ諸懸案ノ解決

テ六名ヲ釋放セシムルヲ最モ適當ト考フルニ付其ノ意味  
ニ於テ貴使モ「モスコ一」ニ對シ意見ヲ添ヘテ傳達セラ  
ルルコト可ナルヘシト考フ

大使、日「ソ」國交ヲ改善スルコトハ自分ノ念トスル處ナ  
ルモ北鐵賣却交渉ニ付テハ滿洲國側力頑強且威壓的ノ態  
度ヲ以テ臨ミタル爲四ヶ月ヲ空費シタリ

局長、四ヶ月ヲ空費シタルコトニ付テハ滿洲國側ノミナラ  
ス「ソ」側ニモ責任アルヘシ現ニ局面轉換ノ氣運アリシ  
ニ拘ラス突如怪文書事件發生シ爲ニ交渉遷延ヲ見タル次  
第ナリ故ニ怪文書事件ニ於ケル「ソ」側ノ態度ハ甚々亂  
暴ニシテ甚々不都合ナル次第ナリ

大使、（當時ノ事情ヲ述ヘタル后）自分ニモ同事件ハ不倫  
快ナリシカ本國政府ヨリ訓令アリシ故之ヲ實行セル次第  
ナリ

（尙滿洲國ノ遣方ニ付種々苦情ヲ述ヘタル上要スルニ日  
本カ北鐵交渉ヲ解決セシムルモノナリト述ヘタルニ付局  
長ヨリ適當説明ヲ加ヘタリ）  
尙北鐵價格ニ付テハ五千萬乃至八千萬ト言フカ如キ價格  
ハ問題トナラス

局長、本問題ヲ解決セスシテハ日滿「ソ」間ノ關係ハ改善  
セラレサルヘキニ就テハ賣ル方モ大ナル政治的見地ヨリ  
考フレハ本問題力單ナル金錢問題ニ非サルコトヲ了得セ  
ラルヘシ

大使、然リトスルモ餘リニ少額ニテハ不可ナリ北鐵ハ經濟  
的價值ヲ有ス

局長、經濟的價值ヲ有スト言フモ右ハ漸次減退スル一方ニ  
テ現ニ拉賓線ニ依リ其ノ經濟的價值ハ渺ラス減少セリ

大使、「ソ」側トシテハ誠意ヲ以テ本問題ヲ解決シ尙日  
「ソ」兩國間ノ關係ヲ改善シ度キ次第ニシテ右ハ「ソ」  
側ノ一貫セル意向ナリ

局長、然シナカラ「モーロトフ」及「リトヴィーノフ」ノ  
演説ハ餘リニ激シカラスヤ、何レノ國ニモ熱狂的愛國者  
アルヲ以テ相手國政治家ハ此等ノモノヲ激昂セシメサル  
様仕向ケルヲ賢明トスルニ非スヤ

大使、局長ノ意見ニハ同感ナルカ「モーロトフ」及「リト  
ヴィーノフ」ノ演説モ其ノ氣持ハ國交ノ圓滿增進ヲ念ト  
スル趣旨ナルコトヲ諒解セラレ度現ニ自分モ兩國國交ヲ  
改善シタキ趣旨ニテ交渉シ居ル次第ニシテ諸懸案ノ解決

~~~~~